ミドルウェア・デザインシート
（Oracle Solaris ゾーン環境デザインシート）

製品名	PRIMECLUSTER HA Server PRIMECLUSTER Wizard for Oracle 4.5A02
バージョン	4.6A00
動作OS	Oracle Solaris

2021年10月

第1.0版

富士通株式会社

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

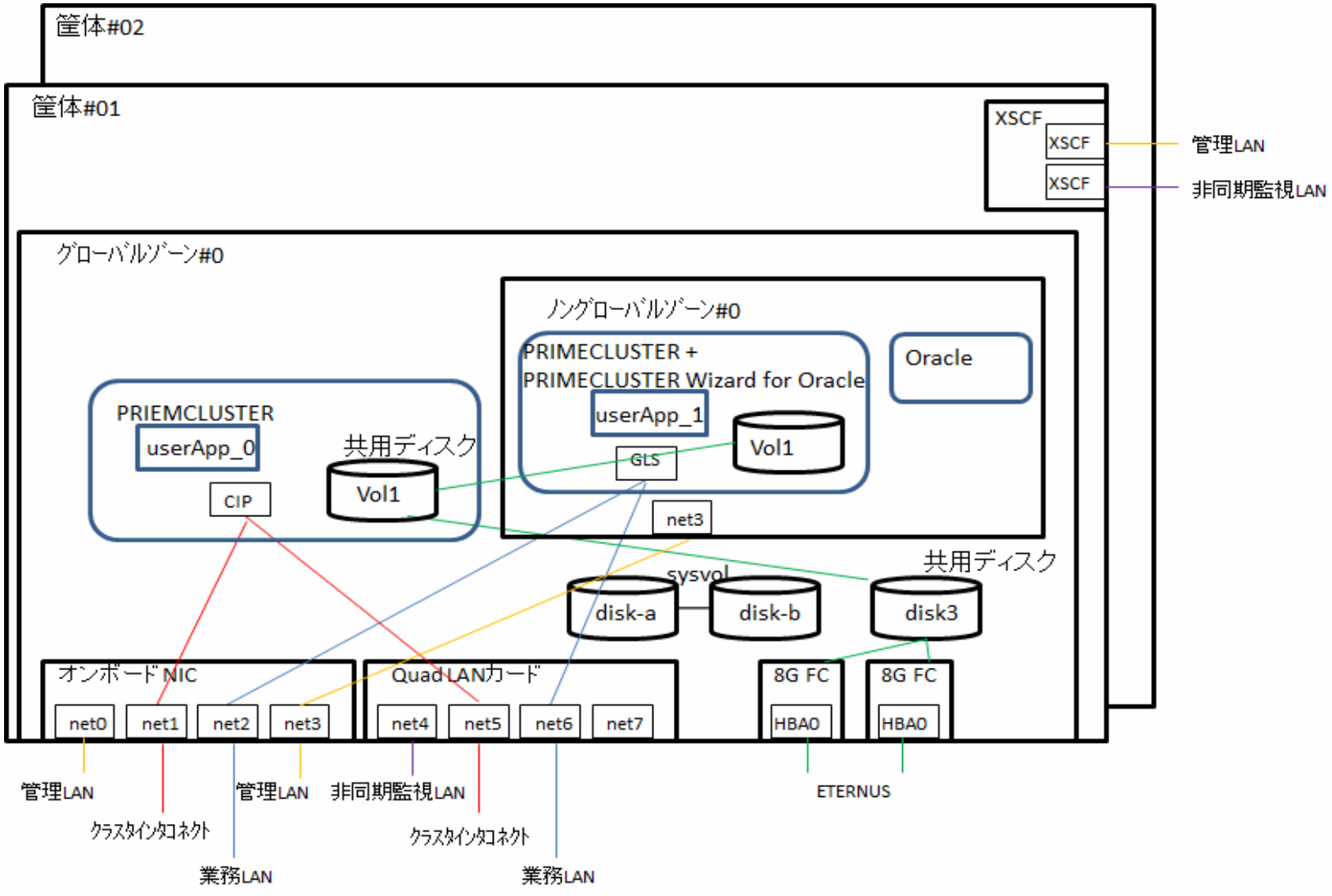
改版履歴

項番	版数	変更日	変更種別	変更箇所 （ページ等）	変更内容
1	1.0	2021年10月	新規作成	－	初版作成

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

Oracle Solaris ゾーン環境のPRIMECLUSTERシステムの構成図です。設計の際には参考にしてください。

■システム構成
システム構成図



All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	設計(リソース数)

本シートは、クラスタアプリケーションおよびリソースを設定する際に、リソースのオブジェクト数とディテクタ数を確認するためのものです。

リソース設定において、いずれかのリソースのオブジェクト数が 50 個を超える場合、PRIMECLUSTERシステム全体で設定できるリソースオブジェクト数およびディテクタ数が、最大値を超えていないことを確認してください。

PRIMECLUSTERシステム全体で設定できるリソースオブジェクト数およびディテクタ数の最大値は以下のとおりです。

- クラスタアプリケーション数 : 48 個
- リソースオブジェクト数 : 500 個
- ディテクタ数 : 100 個

上記の値を超えるクラスタアプリケーションの構成は作成できません。

以下の表の太枠の中に各リソースのオブジェクト数を記入し、算出されたディテクタ数の合計が最大値(100)を超えていないことを確認してください（最大値を超えると、合計のセルが赤色で強調されます）。

グローバルゾーン

リソース種別	オブジェクト数	ディテクタ数
Cmdline	1	1
Fsystem (UFS)	0	0
Fsystem (ZFS) (※1)	0	0
NFS (※2)	0	0
Gds	1	1
Gls	0	0
引継ぎネットワーク	0	0
Procedure	0	0
プロセス監視	0	0
回線切替装置	0	0
合計	**2**	**2**

Fsystemリソース(ZFS)

ZFSストレージプール名	ZFSストレージプールに含まれるレガシーZFSファイルシステム数	ディテクタ数	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	★
		0	
合計	**0 (オブジェクト数)**	**0**	

※1 ZFS を使用する Fsystemリソースのオブジェクト数とディテクタ数は、以下の「Fsystemリソース(ZFS)」の表から算出します。
※2 FsystemリソースでSHAREフラグをつけたオブジェクトの数

Fsystemリソースに登録するZFSストレージプールが11個以上存在する場合は、★の行をコピーして必要な数だけ行を追加してください。

ノングローバルゾーン

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

リソース種別	オブジェクト数	ディテクタ数
Cmdline	1	1
Fsystem (UFS)	1	1
Fsystem (ZFS) (※1)	0	0
NFS (※2)	0	0
Gds	0	0
Gls	1	1
引継ぎネットワーク	0	0
Procedure	0	0
プロセス監視	0	0
回線切替装置	0	0
合計	**3**	**3**

Fsystemリソース(ZFS)

ZFSストレージプール名	ZFSストレージプールに含まれるレガシーZFSファイルシステム数	ディテクタ数	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	
		0	★
		0	
合計	**0 (オブジェクト数)**	**0**	

※1 ZFS を使用する Fsystemリソースのオブジェクト数とディテクタ数は、
以下の「Fsystemリソース(ZFS)」の表から算出します。
※2 FsystemリソースでSHAREフラグをつけたオブジェクトの数

Fsystemリソースに登録するZFSストレージプールが11個以上存在する場合は、
★の行をコピーして必要な数だけ行を追加してください。

・ 表中のディテクタ数の数式に含まれる2、5、10、64 等の数値は、各リソースの1ディテクタあたりが監視する
オブジェクト数です。
・各リソースのディテクタ数(ZFSを使用するFsystemリソースは除く)は以下の式で計算できます。
(ディテクタ数) = (オブジェクト数) ÷ (1ディテクタあたりが監視するオブジェクト数) (小数点以下は切り上げ)
・ZFSを使用するFsystemリソースのオブジェクト数とディテクタ数は以下の式で計算できます。
(オブジェクト数) = (ZFSストレージプール数) + (ZFSストレージプールに含まれるレガシーZFSファイルシステム数)
(ディテクタ数) = (ZFSストレージプールごとに以下の式を計算した値の合計)
((当該ZFSストレージプールに含まれるレガシーZFSファイルシステムの数) + 1) ÷ 30 (小数点以下は切り上げ)
・ 各リソースに対応するオブジェクトについては、各リソースのデザインシートを参照してください。
・ オブジェクト数は、すべてのクラスタアプリケーションに登録されているリソースのすべてのオブジェクト数を
合計した値になります。ディテクタ数は、オブジェクト数の合計値から計算します。

例:

リソース種別	オブジェクト数	ディテクタ数
Cmdline	40	20
Fsystem (UFS)	80	16
Fsystem (ZFS) (※1)	102	14
NFS (※2)	0	0
Gds	200	4
Gls	50	1

Fsystemリソース(ZFS)

ZFSストレージプール名	ZFSストレージプールに含まれるレガシーZFSファイルシステム数	ディテクタ数
zpool01	35	2
zpool02	30	2
zpool03	25	1

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

引継ぎネットワーク	0	0
Procedure	10	10
プロセス監視	10	10
回線切替装置	0	0
合計	**492**	**75**

zpool04	0	1	
zpool05	0	1	
zpool06	0	1	
zpool07	0	1	
zpool08	0	1	
zpool09	0	1	★
zpool10	0	1	★
zpool11	0	1	★
zpool12	0	1	
合計	**102（オブジェクト数）**	**14**	

上記の例では、ディテクタ数の合計は75個となり、この値は、ディテクタ数の最大値100個を超えて
いないため、設定可能な構成となります。

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	インストール

インストール種別	インストール

操作概要	GUIインストール
	サイレントインストール

No.	エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
		大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	CSV形式(キー名)	GUI	コマンド名	ファイル名	CSV形式(キー名)		
1		インストールするエディション			cluster_installの-eオプション	必須	HA		HA												

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	Web-Based Admin View Startup

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
		大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	CSV形式（キー名）	GUI	コマンド名	ファイル名	CSV形式（キー名）		
1		Web-Based Admin View（運用管理ビュー）	redirect		管理サーバへの自動接続	任意	yes/no	yes	yes		本環境変数を変更する必要はありません。	×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties		×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties			
2			language		クライアント表示言語設定	任意	ja/en/auto	auto	auto		本環境変数を変更する必要はありません。	×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties		×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties			
3			initialwait		接続最大待ち時間(秒数)	任意	10～2147483647	60	60		本環境変数を変更する必要はありません。	×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties		×	－	C:¥Users¥[ユーザ名]¥AppData¥Local¥Programs¥PRIMECLUSTER¥Web-Based Admin View Startup¥WVStartup.properties			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ
機能名	初期構成

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 OFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 OFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1	1-1		カーネルパラメタ	CF	semsys:seminfo_semmni	セマフォ識別子の最大数	必須	加算	20	40		作成するノングローバルゾーンの数だけ加算してください。 加算値 = 20(グローバルゾーン) + (作成するノングローバルゾーンの数 x 20)	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-2				shmsys:shminfo_shmmax	作成できる System V 共有メモリセグメントの最大サイズ	必須	最大値	4194304 (注1)	4194304		注1) リソースデータベースで必要とする、shmsys:shminfo_shmmax の値を次に示す値に変更します。 クラスタシステムリソース数を以下の方法で見積ります。 リソース数 = (a) + (b) (a) 共用ディスクデバイスのディスク数 x (共用ノード数 + 1) x 2 (b) ローカルディスクの総数 (全てのクラスタ構成ノード内のローカルディスク数) リソースデータベースで必要な値 = 1048576 + 2776 x リソース数 ・上記の計算の値がデフォルト値 (8388608) より大きい場合: shmsys:shminfo_shmmax = リソースデータベースで必要な値 ・上記の計算の値がデフォルト値 (8388608) より小さい場合: shmsys:shminfo_shmmax を編集しない (デフォルト値を使用します)	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-3				shmsys:shminfo_shmmni	システム全体で作成できる共有メモリセグメントの最大数	必須	加算	30	60		作成するノングローバルゾーンの数だけ加算してください。 加算値 = 30(グローバルゾーン) + (作成するノングローバルゾーンの数 x 30)	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-4				scfd:scf_rdctrl_sense_wait		任意								/etc/system							
	1-5			RMS	msgsys:msginfo_msgmnb	1つのメッセージキューに保有できるメッセージの最大サイズ	必須	OSに依存 (4194304)	OSに依存	4194304		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-6				msgsys:msginfo_msgmni	システム全体で利用可能なメッセージキュー識別子の最大数	必須	OSに依存 (8192)	OSに依存	8192		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-7				msgsys:msginfo_msgtql	メッセージヘッダ数の最大数	必須	OSに依存 (65535)	OSに依存	65535		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-8			GFS	semsys:seminfo_semmni	セマフォ識別子の最大数	任意	加算	2						/etc/system							
	1-9			Web-Based Admin View	ip:tcp_fusion_rcv_unreadmin	TCP のloopback（ノード内折り返し）通信に於いて、送信側のコネクション内部に滞留可能な処理待ちメッセージ数	必須	OSに依存	OSに依存			Solaris10でのみ必須パラメタです。 Solaris11では設定不要です。	×		/etc/system		×	−	/etc/system			
2	2-1		NTP	運用形態		NTPサーバの配置場所	必須	選択	□ NTPサーバ(クラスタ内に、NTPサーバ存在) □ NTPクライアント	■ NTPクライアント												
	2-2			プロトコル(broadcast指定時のみ)			任意															
	2-3			プライマリ	ホスト名	NTPサーバのプライマリサーバのホスト名	必須			host1												
	2-4				IPアドレス	NTPサーバのプライマリサーバのIPアドレス	必須			192.168.1.10												
	2-5				サブネットマスク	NTPサーバのプライマリサーバのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	2-6			セカンダリ	ホスト名	NTPサーバのセカンダリサーバのホスト名	任意			host2												
	2-7				IPアドレス	NTPサーバのセカンダリサーバのIPアドレス	任意			192.168.1.11												
	2-8				サブネットマスク	NTPサーバのセカンダリサーバのサブネットマスク	任意			255.255.255.0												
	3-1			運用形態		運用管理ビューの運用形態	必須		■ 2層 □ 3層	■ 2層		2層:クラスタ管理サーバとクラスタノードを兼用 3層:クラスタ管理サーバ、クラスタノードが別々に設置されるモデル	×	−	−		×	−	−			
	3-2			プライマリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	node1			×	−	/etc/hosts		×	−	/etc/hosts			
	3-3				IPアドレス	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.1			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam primary-server <IPアドレス>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam primary-server	−			
	3-4			セカンダリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	node2			×	−	/etc/hosts		×	−	/etc/hosts			
	3-5				IPアドレス	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.2			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam secondary-server <IPアドレス>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam secondary-server	−			
	3-6			ユーザID	wvroot グループ	運用管理ビューで使用するwvroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし	pclwv		root ユーザであれば、各グループに属さなくてもログイン可能		useradd, usermod	−		×	−	/etc/passwd			
	3-7				clroot グループ	運用管理ビューで使用するclroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	−		×	−	/etc/passwd			
	3-8				cladmin グループ	運用管理ビューで使用するcladmin グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	−		×	−	/etc/passwd			
	3-9				clmon グループ	運用管理ビューで使用するclmonグループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	−		×	−	/etc/passwd			
	3-10				sdxroot グループ	運用管理ビューで使用するsdxroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	−		×	−	/etc/passwd			
	3-11			mip	ホスト名	自ホストを識別するためのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	−	/etc/hosts		×	−	/etc/hosts			
	3-12				IPアドレス	自ホストを識別するためのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam mip <IPアドレス>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam mip	−			
	3-13			httpip	ホスト名	WWWサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	−	/etc/hosts		×	−	/etc/hosts			
	3-14				IPアドレス	WWWサーバのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam httpip <IPアドレス>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam httpip	−			
	3-15			java_home		Java動作環境	任意	JDK/JRE インストールディレクトリ	/opt/FJSVwvbs/jre			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam java_home <JDK/JREインストールディレクトリ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam java_home	−			
	3-16			out-time		Web-Based Admin Viewの離席監視時間(分)	任意	離席監視をする場合: 10-60(分) 離席監視をしない場合: 0	0				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam out-time <分>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam out-time	−			
	3-17			keep-time		クライアントが管理サーバのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam keep-time <秒>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam keep-time	−			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

3	3-18		Web-Based Admin View(運用管理ビュー)	health-time	管理サーバが監視ノードのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam health-time <秒>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam health-time	−			
	3-19			retry-time	監視ノードから管理サーバへの接続の試行間隔(秒)	任意	5-300(秒)	30			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam retry-time <秒>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam retry-time	−			
	3-20			look-and-feel	Look&Feel	任意	Metal,CDE/Motif,Windows,Any	Metal			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam look-and-feel <Metal | CDE/Motif | Windows | Any>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam look-and-feel	−			
	3-21			server-ha	セカンダリサーバの自動選出可否を設定	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-ha <on | off>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-ha	−			
	3-22			server-election	セカンダリ管理サーバ選出対象	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-election <on | off>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-election	−			
	3-23			c-tlog-debug	クライアント詳細トレース	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam c-tlog-debug <on | off>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam c-tlog-debug	−			
	3-24			s-llog-vol	認証ログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-vol <サイズ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-vol	−			
	3-25			s-llog-num	認証ログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-num <世代数>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-num	−			
	3-26			s-olog-vol	イベントログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-vol <サイズ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-vol	−			
	3-27			s-olog-num	イベントログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-num <世代数>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-num	−			
	3-28			s-elog-vol	管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-vol <サイズ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-vol	−			
	3-29			s-elog-num	管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-num <世代数>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-num	−			
	3-30			s-tlog-vol	管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-vol <サイズ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-vol	−			
	3-31			s-tlog-num	管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-num <世代数>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-num	−			
	3-32			s-tlog-debug	管理サーバトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-debug <on | off>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-debug	−			
	3-33			n-tlog-vol	監視ノードトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-vol <サイズ>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-vol	−			
	3-34			n-tlog-num	監視ノードトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-num <世代数>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-num	−			
	3-35			n-tlog-debug	監視ノードトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-debug <on | off>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-debug	−			
	3-36			group-addr	管理サーバグループアドレス(IPアドレス)	任意	IPアドレス				本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam group-addr <IPアドレス>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam group-addr	−			
	3-37			lang	Web-Based Admin Viewが動作する言語環境。 この変数が設定されていない場合、英語環境で動作 C:英語、ja:日本語	任意	C, ja	C	ja			×	(初期設定時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam -add sys lang <C | ja> (設定変更時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam lang <C | ja>	−		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam lang	−			
4	4-1		Cluster Foundation (CF)	クラスタ名	PRIMECLUSTERのクラスタ名	必須	31文字以下の印刷可能なASCII 文字（空白、改行、タブ文字を除く）		CLUSTER1		クラスタ名は常に大文字として処理されます。	○	cfconfig	/etc/default/cluster		○		/etc/default/cluster			
	4-2			クラスタノード数	PRIMECLUSTERを構築するノード数	必須			2			○				○					
	4-3			クラスタノード名	CFで使用するノード名	必須	11文字以下の英小文字・数字・記号(-、_)		node1, node2		CFノード名の先頭文字には、英小文字を設定してください。	○	cfconfig	/etc/default/cluster		○		/etc/default/cluster			
	4-4			サブネット数	クラスタインタコネクトのサブネット数	必須	1	1	1		固定値	○				×		/etc/cip.cf			
	4-5			サブネット番号	クラスタインタコネクトのIPアドレス	必須			192.168.0.0			○				×		/etc/cip.cf, /etc/hosts			
	4-6			サブネットマスク	クラスタインタコネクトのネットマスク値(IPV4の場合のみ)	必須			255.255.255.0			○				×		/etc/cip.cf			
	4-7			CFリモートサービス使用の有無	CFリモートサービスを使用するかどうかを選択	必須	cfcp/cfsh	■cfcp/■cfsh	■cfcp/■cfsh	変更あり	RMSを使用する場合には必須	○	cfset	/etc/default/cluster.config		×		/etc/default/cluster.config			
	4-8			IPインタコネクト	CF over IPを使用するかどうかを選択	必須	◇する ◇しない	しない	しない		Solaris11以降の環境の場合、CF over IPは使用できません。	○	cfconfig	/etc/default/cluster		×		/etc/default/cluster			
5			シャットダウン機構(SF)	シャットダウンエージェント	使用するシャットダウンエージェントを選択	必須	◇ XSCF(SPARC M10/M12) ◇ XSCF(SPARC Enterprise Mシリーズ) ◇ ILOM ◇ ALOM ◇ KZONE(SPARC M10/M12) ◇ KZONE(SPARC T4/T5/T7/S7) ◇ IGMP		XSCF(SPARC M10/M12)			○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
6			クラスタリソース管理機構(CRM)	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置 ネットワーク装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、ネットワーク装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		する			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -n			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
				回線切替装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、回線切替装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		しない			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -s			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
				ディスク装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、ディスク装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		する			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -d			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
	7-1			環境変数(グローバル) RELIANT_SHUT_MIN_WAIT	RMS停止待ち時間	必須	0～2147483647	2147483647	1200			×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-2			環境変数(グローバル) HV_AUTOSTART_WAIT	RMS 起動時に他クラスタノードのRMSがOnline状態になるのを待つ時間指定（秒数で）。指定	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	60 (秒)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-3			環境変数(グローバル) HV_CHECKSUM_INTERVAL	ノード間でチェックサムが同じであると確認されるまでRMSが待つ時間（秒数）。	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	120 (秒)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-4			環境変数(グローバル) HV_LOH_INTERVAL	最終Online ノード (LOH) を特定するためにタイムスタンプを比較する際の、最小時間差	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	30 (秒)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-5			環境変数(グローバル) HV_AUTOSTARTUP_IGNORE	RMSの起動時に無視されるクラスタノードリスト	任意	RMSクラスタノードリスト	未設定				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-6			環境変数(グローバル) HV_LOG_ACTION_THRESHOLD	RMSログファイルを消去する条件 （ファイルシステム使用率の閾値）	任意	0 - 100	98 (%)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-7			環境変数(グローバル) HV_LOG_WARN_THRESHOLD	RMS ログファイルの容量について警告表示する条件 （ファイルシステム使用率の閾値）	任意	0 - 100	95 (%)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-8			環境変数(グローバル) HV_USE_ELM	RMSのハートビート監視モード	任意	0 (UDPハートビート)、 1 (ELM + UDPハートビート)	1			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

7	7-9		RMS	環境変数(グローバル)	RELIANT_LOG_LIFE	RMS ログ情報が保持される日数	任意	マニュアル ⇒ 任意の日数 変数リスト ⇒ 0 - 32767	7 (日)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-10			環境変数(グローバル)	HV_COM_PORT	RMS ベースモニタがクラスタの全ノードと通信する場合に使用するポート	任意	0 - 65535	8000				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-11			環境変数(グローバル)	RELIANT_LOG_PATH	すべてのRMS ログファイルとRMS Wizard Tools ログファイルが格納されるディレクトリ	任意	任意の有効なパス	/var/opt/SMAWRrms/log				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-12			環境変数(グローバル)	RELIANT_PATH	RMS ディレクトリ階層のルートディレクトリ	任意	任意の有効なパス	/opt/SMAW/SMAWRrms			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-13			環境変数(ローカル)	HV_RCSTART	RMS自動起動	任意	◇しない ◇する	する			(CLIの指定値) 0: しない 1: する	○		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		○		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-14			環境変数(ローカル)	HV_SYSLOG_USE	ベースモニタからシステムログへの出力制御	必須	0 (出力しない)、 1 (出力する)	1	1			×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-15			環境変数(ローカル)	HV_CONNECT_TIMEOUT	RMSのUDPハートビート異常と判断する時間	任意	5 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	30 (秒)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-16			設定ファイル	UDPハートビートタイマ	HV_CONNECT_TIMEOUTによってUDPハートビート異常と判断後、UDPハートビートの復旧を待ち合わせる時間	任意	45 - 3600	600(秒)			以下の手順で設定します。 1. 両ノードのクラスタアプリケーションおよびRMSを停止します。 # hvshut -a 2. 両ノードの/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rmsを以下のように変更します。(configは、RMS構成定義ファイル名であり、デフォルトはconfigです) hvcm -c config -h 待ち時間(秒) 例 デフォルトの600秒から800秒に変更する場合 -h 監視タイムアウト値(最大:3600) hvcm -c config -h 800 3. 両ノードのRMSを起動します。 # hvcm -a 4. RMS が2 で指定したとおりのオプションで起動されているかを確認します。 # hvdisp -h hvcm -c config -h 待ち時間(秒) 設定した値となっていることを確認します。	×		/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rms		×		/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rms			
	7-17			環境変数(ローカル)	SCRIPTS_TIME_OUT	RMS スクリプトが終了するまでの時間	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	300 (秒)			リソースでScriptTimeout属性の指定がない場合に使用される値。各リソースの特性に応じたタイムアウト値は、リソース毎に固有のScriptTimeout属性にタイムアウト値を設定するため、各リソースで本値は使用されない。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-18			環境変数(ローカル)	HV_AUTOSTARTUP	ローカルノード上の全 userApplication の自動起動制御の属性	任意	0 (自動起動しない)、 1 (自動起動する)	1				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-19			環境変数(ローカル)	HV_LOG_ACTION	RMSのログが格納されるファイルシステムの使用率が HV_LOG_ACTION_THRESHOLD 以上になった場合に、そのディレクトリにある現在のログファイルを削除するかどうかを決定	任意	on(削除する) off(削除しない)	off				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-20			環境変数(ローカル)	RELIANT_INITSCRIPT	システム起動時にRMS が実行する初期化スクリプト	任意	任意の実行可能スクリプト名	<*RELIANT_PATH*>/bin/InitScript				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-21			環境変数(ローカル)	HV_MAX_HVDISP_FILE SIZE	RMSが構成・状態変化の情報をhvdispに提供するための一時ファイルの最大サイズ	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	20,000,000 (バイト)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-22			環境変数(ローカル)	HV_MAXPROC	RMS が同時に実行できるスクリプトの最大数	任意	0 - 99	30			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-23			環境変数(ローカル)	HV_MLOCKALL	ベースモニタプロセスおよび割当てたすべてのメモリをメモリ内でロックするかどうか多指定	任意	0 (ロックしない)、 1 (ロックする)	0			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-24			環境変数(ローカル)	HV_SCRIPTS_DEBUG	RMS スクリプトによるデバッグ出力情報を制御	任意	0 (詳細情報を出力しない)、 1 (詳細情報を出力する)	0			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-25			環境変数(ローカル)	RELIANT_HOSTNAME	RMS クラスタ内のローカルノードの名前	任意	任意の有効な名前	<CF*ノード名*>RMS			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-26			環境変数(ローカル)	RELIANT_STARTUP_PATH	RMS の起動時に構成定義ファイルを検索するディレクトリ	任意	任意の有効なパス	<*RELIANT_PATH*>/build			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-27			環境変数(ローカル)	HV_REALTIME_PRIORITY	RMS BM (ベースモニタ) とそのディテクタのRT クラス内の優先順位	任意	0 - 99	50			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-28			環境変数	HV_GMOUNTMAXLOOP	Fsystem リソースのディテクタがファイルシステムの監視処理が復帰しない場合に、監視処理の復帰を待ち合わせる復旧処理を実施します。本パラメタでは、復旧処理の回数を設定する(復旧処理の最大試行回数は、HV_GMOUNTMAXRETRY と掛け合わせた回数になる。)	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	4				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-29			環境変数	HV_GMOUNTMAXRETRY	Fsystem リソースのディテクタがファイルシステムの監視処理が復帰しない場合に、監視処理の復帰を待ち合わせる復旧処理を実施します。本パラメタでは、復旧処理の回数を設定する(復旧処理の最大試行回数は、HV_GMOUNTMAXRETRY と掛け合わせた回数になる。)	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	7				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
8			故障リソース特定/オペレータ介入要求	AppWatch		故障リソース特定/オペレータ介入要求を動作させるか選択	必須	◇ON ◇OFF	ON(注)	ON		注) ON がデフォルトです。	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetparam -p AppWatch ON(※任意の1ノードで実施)			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetparam -p			
9			I/Oフェンシング機能(GDS)	/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf	SDX_VM_IO_FENCE	I/Oフェンシング機能をGDSで使用するか否かを選択	任意	◇ON ◇OFF	OFF				×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			

GDS:Global Disk Services
GFS:Global File Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	初期構成

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 OFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 OFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1	1-1		カーネルパラメタ	CF	semsys:seminfo_semmni	セマフォ識別子の最大数	必須	加算	20	20			×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-2				shmsys:shminfo_shmmax	作成できる System V 共有メモリセグメントの最大サイズ	必須	最大値	4194304 （注1）	4194304		注1） リソースデータベースで必要とする、shmsys:shminfo_shmmax の値を次に示す値に変更します。 クラスタシステムリソース数を以下の方法で見積ります。 リソース数 = (a) + (b) (a) 共用ディスクデバイスのディスク数 x (共用ノード数 + 1) x 2 (b) ローカルディスクの総数 (全てのクラスタ構成ノード内のローカルディスク数) リソースデータベースで必要な値 = 1048576 + 2776 x リソース数 ・上記の計算の値がデフォルト値 (8388608) より大きい場合: shmsys:shminfo_shmmax = リソースデータベースで必要な値 ・上記の計算の値がデフォルト値 (8388608) より小さい場合: shmsys:shminfo_shmmax を編集しない (デフォルト値を使用します)	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-3				shmsys:shminfo_shmmni	システム全体で作成できる共有メモリセグメントの最大数	必須	加算	30	30			×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-4				scfdscf_rdctrl_sense_wait		任意								/etc/system							
	1-5			RMS	msgsys:msginfo_msgmnb	1つのメッセージキューに保有できるメッセージの最大サイズ	必須	OSに依存 (4194304)	OSに依存	4194304		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。 ノングローバルゾーンの本定義は削除しても問題ありません。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-6				msgsys:msginfo_msgmni	システム全体で利用可能なメッセージキュー識別子の最大数	必須	OSに依存 (8192)	OSに依存	8192		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。 ノングローバルゾーンの本定義は削除しても問題ありません。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-7				msgsys:msginfo_msgtql	メッセージヘッダ数の最大数	必須	OSに依存 (65535)	OSに依存	65535		RMSインストール時にQ列の設定ファイルがチェックされ、J列の値に満たない場合、または本パラメータの定義が存在しない場合、設定ファイルの値がJ列の値に自動で更新されます。 ノングローバルゾーンの本定義は削除しても問題ありません。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	1-8			GFS	semsys:seminfo_semmni	セマフォ識別子の最大数	任意	加算	2						/etc/system							
2	2-1		NTP	運用形態		NTPサーバの配置場所	必須	選択	□ NTPサーバ(クラスタ内に、NTPサーバ存在) □ NTPクライアント	■ NTPクライアント												
	2-2			プロトコル(broadcast指定時のみ)			任意															
	2-3			プライマリ	ホスト名	NTPサーバのプライマリサーバのホスト名	必須			host1												
	2-4				IPアドレス	NTPサーバのプライマリサーバのIPアドレス	必須			192.168.1.10												
	2-5				サブネットマスク	NTPサーバのプライマリサーバのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	2-6			セカンダリ	ホスト名	NTPサーバのセカンダリサーバのホスト名	任意			host2												
	2-7				IPアドレス	NTPサーバのセカンダリサーバのIPアドレス	任意			192.168.1.11												
	2-8				サブネットマスク	NTPサーバのセカンダリサーバのサブネットマスク	任意			255.255.255.0												
	3-1			運用形態		運用管理ビューの運用形態	必須		■ 2層 □ 3層	■ 2層		2層:クラスタ管理サーバとクラスタノードを兼用 3層:クラスタ管理サーバ、クラスタノードが別々に設置されるモデル	×	–	–		×	–	–			
	3-2			プライマリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	zone1			×	–	/etc/hosts		×	–	/etc/hosts			
	3-3				IPアドレス	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.100			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam primary-server <IPアドレス>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam primary-server	–			
	3-4			セカンダリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	zone1			×	–	/etc/hosts		×	–	/etc/hosts			
	3-5				IPアドレス	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.100			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam secondary-server <IPアドレス>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam secondary-server	–			
	3-6			ユーザID	wvroot グループ	運用管理ビューで使用するwvroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし	pclwv		root ユーザであれば、各グループに属さなくてもログイン可能		useradd, usermod	–		×	–	/etc/passwd			
	3-7				clroot グループ	運用管理ビューで使用するclroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	–		×	–	/etc/passwd			
	3-8				cladmin グループ	運用管理ビューで使用するcladmin グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	–		×	–	/etc/passwd			
	3-9				clmon グループ	運用管理ビューで使用するclmonグループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	–		×	–	/etc/passwd			
	3-10				sdxroot グループ	運用管理ビューで使用するsdxroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	–		×	–	/etc/passwd			
	3-11			mip	ホスト名	自ホストを識別するためのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	–	/etc/hosts		×	–	/etc/hosts			
	3-12				IPアドレス	自ホストを識別するためのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam mip <IPアドレス>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam mip	–			
	3-13			httpip	ホスト名	WWWサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	–	/etc/hosts		×	–	/etc/hosts			
	3-14				IPアドレス	WWWサーバのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam httpip <IPアドレス>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam httpip	–			
	3-15			java_home		Java動作環境	任意	JDK/JRE インストールディレクトリ	/opt/FJSVwvbs/jre			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam java_home <JDK/JRE インストールディレクトリ>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam java_home	–			
	3-16			out-time		Web-Based Admin Viewの離席監視時間(分)	任意	離席監視をする場合: 10-60(分) 離席監視をしない場合: 0	0				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam out-time <分>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam out-time	–			
	3-17			keep-time		クライアントが管理サーバのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam keep-time <秒>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam keep-time	–			
	3-18			health-time		管理サーバが監視ノードのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam health-time <秒>	–		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam health-time	–			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

3	3-19		Web-Based Admin View(運用管理ビュー)ノングローバルゾーン1	retry-time		監視ノードから管理サーバへの接続の試行間隔(秒)	任意	5-300(秒)	30			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam retry-time <秒>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam retry-time	-			
	3-20			look-and-feel		Look&Feel	任意	Metal,CDE/Motif,Windows,Any	Metal			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam look-and-feel <Metal | CDE/Motif | Windows | Any>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam look-and-feel	-			
	3-21			server-ha		セカンダリサーバの自動選出可否を設定	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-ha <on | off>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-ha	-			
	3-22			server-election		セカンダリ管理サーバ選出対象	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-election <on | off>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-election	-			
	3-23			c-tlog-debug		クライアント詳細トレース	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam c-tlog-debug <on | off>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam c-tlog-debug	-			
	3-24			s-llog-vol		認証ログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-vol <サイズ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-vol	-			
	3-25			s-llog-num		認証ログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-num <世代数>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-num	-			
	3-26			s-olog-vol		イベントログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-vol <サイズ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-vol	-			
	3-27			s-olog-num		イベントログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-num <世代数>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-num	-			
	3-28			s-elog-vol		管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-vol <サイズ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-vol	-			
	3-29			s-elog-num		管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-num <世代数>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-num	-			
	3-30			s-tlog-vol		管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-vol <サイズ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-vol	-			
	3-31			s-tlog-num		管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-num <世代数>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-num	-			
	3-32			s-tlog-debug		管理サーバトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-debug <on | off>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-debug	-			
	3-33			n-tlog-vol		監視ノードトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-vol <サイズ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-vol	-			
	3-34			n-tlog-num		監視ノードトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-num <世代数>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-num	-			
	3-35			n-tlog-debug		監視ノードトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-debug <on | off>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-debug	-			
	3-36			group-addr		管理サーバグループアドレス(IPアドレス)	任意	IPアドレス				本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam group-addr <IPアドレス>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam group-addr	-			
	3-37			lang		Web-Based Admin Viewが動作する言語環境。 この変数が設定されていない場合、英語環境で動作 C:英語、ja:日本語	任意	C, ja	C	ja			×	(初期設定時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam -add sys lang <C | ja> (設定変更時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam lang <C | ja>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam lang	-			
	3-1			運用形態		運用管理ビューの運用形態	必須		■ 2層 □ 3層	■ 2層		2層：クラスタ管理サーバとクラスタノードを兼用 3層：クラスタ管理サーバ、クラスタノードが別々に設置されるモデル	×	-	-		×	-	-			
	3-2			プライマリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	zone2			×	-	/etc/hosts		×	-	/etc/hosts			
	3-3				IPアドレス	運用管理ビューサーバのプライマリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.101			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam primary-server <IPアドレス>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam primary-server	-			
	3-4			セカンダリ	ホスト名	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし	zone2			×	-	/etc/hosts		×	-	/etc/hosts			
	3-5				IPアドレス	運用管理ビューサーバのセカンダリサーバのIPアドレス	必須	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス	192.168.1.101			×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam secondary-server <IPアドレス>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam secondary-server	-			
	3-6			ユーザID	wvroot グループ	運用管理ビューで使用するwvroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし	pclwv		root ユーザであれば、各グループに属さなくてもログイン可能		useradd, usermod	-		×	-	/etc/passwd			
	3-7				clroot グループ	運用管理ビューで使用するclroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	-		×	-	/etc/passwd			
	3-8				cladmin グループ	運用管理ビューで使用するcladmin グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	-		×	-	/etc/passwd			
	3-9				clmon グループ	運用管理ビューで使用するclmonグループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	-		×	-	/etc/passwd			
	3-10				sdxroot グループ	運用管理ビューで使用するsdxroot グループのユーザID	任意	OSに依存	なし					useradd, usermod	-		×	-	/etc/passwd			
	3-11			mip	ホスト名	自ホストを識別するためのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	-	/etc/hosts		×	-	/etc/hosts			
	3-12				IPアドレス	自ホストを識別するためのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam mip <IPアドレス>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam mip	-			
	3-13			httpip	ホスト名	WWWサーバのホスト名	任意	OSに依存	なし				×	-	/etc/hosts		×	-	/etc/hosts			
	3-14				IPアドレス	WWWサーバのIPアドレス	任意	IPv4 もしくは、 IPv6 アドレス(リンクローカルアドレス以外)	ノード名に対応するIPアドレス				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam httpip <IPアドレス>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam httpip	-			
	3-15			java_home		Java動作環境	任意	JDK/JRE インストールディレクトリ	/opt/FJSVwvbs/jre			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam java_home <JDK/JRE インストールディレクトリ>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam java_home	-			
	3-16			out-time		Web-Based Admin Viewの離席監視時間(分)	任意	離席監視をする場合： 10-60(分) 離席監視をしない場合： 0	0				×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam out-time <分>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam out-time	-			
	3-17			keep-time		クライアントが管理サーバのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam keep-time <秒>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam keep-time	-			
	3-18			health-time		管理サーバが監視ノードのチェックを行う間隔(秒)	任意	5-60(秒)	10			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam health-time <秒>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam health-time	-			
	3-19			retry-time		監視ノードから管理サーバへの接続の試行間隔(秒)	任意	5-300(秒)	30			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam retry-time <秒>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam retry-time	-			
	3-20			look-and-feel		Look&Feel	任意	Metal,CDE/Motif,Windows,Any	Metal			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam look-and-feel <Metal | CDE/Motif | Windows | Any>	-		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam look-and-feel	-			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

3	3-21		Web-Based Admin View(運用管理ビュー) ノングローバルゾーン2	server-ha		セカンダリサーバの自動選出可否を設定	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-ha <on | off>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-ha	－			
	3-22			server-election		セカンダリ管理サーバ選出対象	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam server-election <on | off>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam server-election	－			
	3-23			c-tlog-debug		クライアント詳細トレース	任意	on, off	off			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam c-tlog-debug <on | off>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam c-tlog-debug	－			
	3-24			s-llog-vol		認証ログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-vol <サイズ>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-vol	－			
	3-25			s-llog-num		認証ログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-llog-num <世代数>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-llog-num	－			
	3-26			s-olog-vol		イベントログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-vol <サイズ>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-vol	－			
	3-27			s-olog-num		イベントログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-olog-num <世代数>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-olog-num	－			
	3-28			s-elog-vol		管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-500(Kbyte)	100			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-vol <サイズ>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-vol	－			
	3-29			s-elog-num		管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	2			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-elog-num <世代数>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-elog-num	－			
	3-30			s-tlog-vol		管理サーバトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-vol <サイズ>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-vol	－			
	3-31			s-tlog-num		管理サーバトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-num <世代数>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-num	－			
	3-32			s-tlog-debug		管理サーバトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam s-tlog-debug <on | off>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam s-tlog-debug	－			
	3-33			n-tlog-vol		監視ノードトレースログファイルサイズ(Kbyte)	任意	50-1000(Kbyte)	200			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-vol <サイズ>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-vol	－			
	3-34			n-tlog-num		監視ノードトレースログファイル世代数	任意	2-10	5			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-num <世代数>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-num	－			
	3-35			n-tlog-debug		監視ノードトレースログ詳細トレース	任意	on, off	on			本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam n-tlog-debug <on | off>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam n-tlog-debug	－			
	3-36			group-addr		管理サーバグループアドレス(IPアドレス)	任意	IPアドレス				本環境変数を変更する必要はありません。	×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam group-addr <IPアドレス>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam group-addr	－			
	3-37			lang		Web-Based Admin Viewが動作する言語環境。 この変数が設定されていない場合、英語環境で動作 C:英語、ja:日本語	任意	C, ja	C	ja			×	(初期設定時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam -add sys lang <C | ja> (設定変更時) /opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvSetparam lang <C | ja>	－		×	/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvGetparam lang	－			
4			Cluster Foundation (CF)	CIPのIPアドレス		ノングローバルゾーンでアプリケーション監視を行う場合に必要なIPアドレス	必須			127.0.0.2		システムで使用されていないループバックアドレスを設定してください。	○				×		/etc/cip.cf, /etc/hosts			
5			シャットダウン機構(SF)	シャットダウンエージェント		使用するシャットダウンエージェントを選択	必須	◇ XSCF(SPARC M10/M12) ◇ XSCF(SPARC Enterprise Mシリーズ) ◇ ILOM ◇ ALOM ◇ KZONE(SPARC M10/M12) ◇ KZONE(SPARC T4/T5/T7/S7) ◇ IGMP		しない		ノングローバルゾーンでは設定不要です。	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
6			クラスタリソース管理機構(CRM)	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置	ネットワーク装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、ネットワーク装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		しない		ノングローバルゾーンでは設定不要です。	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -n			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
					回線切替装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、回線切替装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		しない		ノングローバルゾーンでは設定不要です。	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -s			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
					ディスク装置	リソースデータベースへ登録するハードウェア装置として、ディスク装置を登録するか選択	任意	◇する ◇しない		しない		ノングローバルゾーンでは設定不要です。	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clautoconfig -r -d			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clgettree				
	7-1			環境変数(グローバル)	RELIANT_SHUT_MIN_WAIT	RMS停止待ち時間	必須	0～2147483647	2147483647				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-2			環境変数(グローバル)	HV_AUTOSTART_WAIT	RMS 起動時に他クラスタノードのRMSがOnline状態になるのを待つ時間全（秒数で）指定	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2.147.483.647)	60 (秒)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-3			環境変数(グローバル)	HV_CHECKSUM_INTERVAL	ノード間でチェックサムが同じであると確認されるまでRMSが待つ時間（秒数）。	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2.147.483.647)	120 (秒)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-4			環境変数(グローバル)	HV_LOH_INTERVAL	最終Online ノード (LOH) を特定するためにタイムスタンプを比較する際の、最小時間差	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2.147.483.647)	30 (秒)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-5			環境変数(グローバル)	HV_AUTOSTARTUP_IGNORE	RMSの起動時に無視されるクラスタノードリスト	任意	RMSクラスタノードリスト	未設定				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-6			環境変数(グローバル)	HV_LOG_ACTION_THRESHOLD	RMSログファイルを消去する条件 （ファイルシステム使用率の閾値）	任意	0 - 100	98 (%)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-7			環境変数(グローバル)	HV_LOG_WARN_THRESHOLD	RMS ログファイルの容量について警告表示する条件 （ファイルシステム使用率の閾値）	任意	0 - 100	95 (%)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-8			環境変数(グローバル)	HV_USE_ELM	RMSのハートビート監視モード	任意	0 (UDPハートビート)、 1 (ELM + UDPハートビート)	1			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-9			環境変数(グローバル)	RELIANT_LOG_LIFE	RMS ログ情報が保持される日数	任意	マニュアル ⇒ 任意の日数 実証リスト ⇒ 0 - 32767	7 (日)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-10			環境変数(グローバル)	HV_COM_PORT	RMS ベースモニタがクラスタの全ノードと通信する場合に使用するポート	任意	0 - 65535	8000				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-11			環境変数(グローバル)	RELIANT_LOG_PATH	すべてのRMS ログファイルとRMS Wizard Tools ログファイルが格納される ディレクトリ	任意	任意の有効なパス	/var/opt/SMAWRrms/log				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-12			環境変数(グローバル)	RELIANT_PATH	RMS ディレクトリ階層のルートディレクトリ	任意	任意の有効なパス	/opt/SMAW/SMAWRrms			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-13			環境変数(ローカル)	HV_RCSTART	RMS自動起動	任意	◇しない ◇する	する	しない		(CLIの指定値) 0: しない 1: する	○		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		○		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-14			環境変数(ローカル)	HV_SYSLOG_USE	ベースモニタからシステムログへの出力制御	必須	0 (出力しない)、 1 (出力する)	1				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-15			環境変数(ローカル)	HV_CONNECT_TIMEOUT	RMSのUDPハートビート異常と判断する時間	任意	5 - MAXINT (MAXINT は2.147.483.647)	30 (秒)				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

7	7-16		RMS	設定ファイル	UDPハートビートタイマ	HV_CONNECT_TIMEOUTによってUDPハートビート異常と判断後、UDPハートビートの復旧を待ち合わせる時間	任意	45 - 3600	600(秒)			以下の手順で設定します。 1. 両ノードのクラスタアプリケーションおよびRMSを停止します。 # hvshut -a 2. 両ノードの/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rmsを以下のように変更します。(configは、RMS構成定義ファイル名であり、デフォルトはconfigです) hvcm -c config -h 待ち時間(秒) 例 デフォルトの600秒から800秒に変更する場合 -h 監視タイムアウト値(最大:3600) hvcm -c config -h 800 3. 両ノードのRMSを起動します。 # hvcm -a 4. RMS が2.で指定したとおりのオプションで起動されているかを確認します。 # hvdisp -h hvcm -c config -h 待ち時間(秒) 設定した値となっていることを確認します。	×		/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rms		×		/usr/opt/reliant/etc/CONFIG.rms			
	7-17			環境変数(ローカル)	SCRIPTS_TIME_OUT	RMS スクリプトが終了するまでの時間	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	300 (秒)			リソースでScriptTimeout属性の指定がない場合に使用される値。各リソースの特性に応じたタイムアウト値は、リソース毎に固有のScriptTimeout属性にタイムアウト値を設定するため、各リソースで本値は使用されない。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-18			環境変数(ローカル)	HV_AUTOSTARTUP	ローカルノード上の全 userApplication の自動起動制御の属性	任意	0 (自動起動しない)、 1 (自動起動する)	1				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-19			環境変数(ローカル)	HV_LOG_ACTION	RMSのログが格納されるファイルシステムの使用率が HV_LOG_ACTION_THRESHOLD 以上になった場合に、そのディレクトリにある現在のログファイルを削除するかどうかを決定	任意	on(削除する) off(削除しない)	off				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-20			環境変数(ローカル)	RELIANT_INITSCRIPT	システム起動時にRMS が実行する初期化スクリプト	任意	任意の実行可能スクリプト名	<*RELIANT_PATH*>/bin/InitScript				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-21			環境変数(ローカル)	HV_MAX_HVDISP_FILE SIZE	RMSが構成・状態変化の情報をhvdispに提供するための一時ファイルの最大サイズ	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	20,000,000 (バイト)			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-22			環境変数(ローカル)	HV_MAXPROC	RMS が同時に実行できるスクリプトの最大数	任意	0 - 99	30			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-23			環境変数(ローカル)	HV_MLOCKALL	ベースモニタプロセスおよび割当てたすべてのメモリをメモリ内でロックするかどうかを指定	任意	0 (ロックしない)、 1 (ロックする)	0			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-24			環境変数(ローカル)	HV_SCRIPTS_DEBUG	RMS スクリプトによるデバッグ出力情報を制御	任意	0 (詳細情報を出力しない)、 1 (詳細情報を出力する)	0			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-25			環境変数(ローカル)	RELIANT_HOSTNAME	RMS クラスタ内のローカルノードの名前	任意	任意の有効な名前	<*CF ノード名*>RMS			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-26			環境変数(ローカル)	RELIANT_STARTUP_PATH	RMS の起動時に構成定義ファイルを検索するディレクトリ	任意	任意の有効なパス	<*RELIANT_PATH*>/build			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-27			環境変数(ローカル)	HV_REALTIME_PRIORITY	RMS BM (ベースモニタ) とそのディテクタのRT クラス内の優先順位	任意	0 - 99	50			本環境変数を変更する必要はありません。	×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-28			環境変数	HV_GMOUNTMAXLOOP	Fsystem リソースのディテクタがファイルシステムの監視処理が復帰しない場合に、監視処理の復帰を待ち合わせる復旧処理を実施します。本パラメタでは、復旧処理の回数を設定する(復旧処理の最大試行回数は、HV_GMOUNTMAXRETRY と掛け合わせた回数になる。)	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	4				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
	7-29			環境変数	HV_GMOUNTMAXRETRY	Fsystem リソースのディテクタがファイルシステムの監視処理が復帰しない場合に、監視処理の復帰を待ち合わせる復旧処理を実施します。本パラメタでは、復旧処理の回数を設定する(復旧処理の最大試行回数は、HV_GMOUNTMAXRETRY と掛け合わせた回数になる。)	任意	0 - MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	7				×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			
8			故障リソース特定/オペレータ介入要求	AppWatch		故障リソース特定/オペレータ介入要求を動作させるか選択	必須	◇ON ◇OFF	ON(注)			注) ON がデフォルトです。	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetparam -p AppWatch ON(※任意の1ノードで実施)			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetparam -p			
9			I/Oフェンシング機能(GDS)	/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf	SDX_VM_IO_FENCE	I/Oフェンシング機能をGDSで使用するか否かを選択	任意	◇ON ◇OFF	OFF				×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			

GDS:Global Disk Services
GFS:Global File Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ
機能名	ノード構成(ノード数分シートをコピー)

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	(省略)

No.	エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1		ノード名(uname -n)			1ノード目のノード名(uname -n)	必須			node1												
2		CFノード名			CFで使用するノード名	必須	11文字以下の英小文字・数字・記号(-、)	ノード名	node1		CFノード名の先頭文字には、英小文字を設定してください。	○	cfconfig	/etc/defaut/cluster		○		/etc/defaut/cluster			
3	3-1	インタコネクト	IPアドレス		クラスタインタコネクトのIPアドレス	必須			192.168.0.1			○		/etc/hosts, /etc/cip.cf		×		/etc/hosts, /etc/cip.cf			
	3-2		サブネットマスク		クラスタインタコネクトのサブネットマスク	必須			255.255.255.0			○		/etc/cip.cf		×		/etc/cip.cf			
	3-3		デバイス名		クラスタインタコネクトのNIC名	必須			net1, net3			○	cfconfig	/etc/default/cluster		○		/etc/default/cluster			
4		CFクォーラムセットのノードである			CFクォーラムセットのノードかどうか選択	必須	Yes/No	Yes	Yes		[]デフォルト 固定値です。デフォルトの設定に従い変更しないでください。	○	rqcconfig			○	rqcconfig				
5		CFのクラスタタイムアウト(CLUSTER_TIMEOUT)			CFのクラスタタイムアウト値	必須	1－MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	10	10			×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
6		RMSでの使用の有無			RMSを使用するかどうか選択	必須			RMSを使用する		[]デフォルト	○		/etc/hosts, /etc/cip.cf		×		/etc/hosts, /etc/cip.cf			
		SysNode名				必須		<CFノード名>RMS	node1RMS		デフォルト値固定	○				×	hvw				
7		RCI		アドレス	RCIアドレス	任意					RCI非同期監視使用時のみ	×				×	/usr/sbin/FJSVmadm/setrci stat				
8		カーネルパラメタ		scfd:scf_rdctrl_sense_wait		任意						×		/etc/system		×		/etc/system			
9	9-1	シャットダウン機構(SF)	weight(ノードの重み)		シャットダウン機構で使用するノードの重み	必須			1		SFにて使用する、クラスタパーティション時の生存優先度	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
	9-2		管理LAN IPアドレス		管理LANのIPアドレス	必須			192.168.1.1			○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
	9-3-1		SPARC M10,M12	非同期監視サブLAN IPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	任意			192.168.11.1			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-2			PPAR-ID	PPARのID	必須			0			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-3			ドメイン名	ノードのドメイン名	必須			primary		制御ドメインの場合、"primary"を指定	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-4			接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh	ssh			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -m			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-5			XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須			XSCF1			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-6			XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	任意			XSCF2			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-7			ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須			user001		root以外	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-8			パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須			xscf			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
	9-3-9			ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須			platadm		platadm権限の付与が必要	×				×					
	9-3-10		SPARC M10,M12 マイグレーション機能を使用する場合 制御ドメイン上でゲストドメインへの事前設定を行う場合	ユーザID(ゲストドメイン)	ゲストドメインへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
	9-3-11			ゲストドメインの情報(制御ドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの情報	必須	*guest-name guest-clustername guest-cfname guest_ip guest-user* :					×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -a *guest-name guest-clustername guest-cfname guest_ip guest-user*			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -l				
	9-3-12			シャットダウン機構の重み連携(制御ドメイン)	制御ドメインのシャットダウン機構とゲストドメインのシャットダウン機構の重みの連携を行うかの選択	任意	する/しない	する				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -w off			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -l				
	9-3-13			/etc/systemの設定(ゲストドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの/etc/systemの設定	任意	forceload: misc/klmmod				Solaris 11.1 の SRU 9.5.1 以降が適用されている環境では、本設定は不要です。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	9-3-14		SPARC M10,M12 マイグレーション機能を使用する場合 ゲストドメイン上で事前設定を行う場合	制御ドメインの情報(ゲストドメイン)	クラスタ構成ノードおよび移動先のサーバの情報	必須	*primary_IP primary_weight primary_PPAR-ID XSCF-name1 XSCF-name2* :					×	/etc/opt/FJSVcluster/etc/clovmmigrate.conf			×		/etc/opt/FJSVcluster/etc/clovmmigrate.conf			
	9-3-15			/etc/systemの設定(ゲストドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの/etc/systemの設定	任意	forceload: misc/klmmod				Solaris 11.1 の SRU 9.5.1 以降が適用されている環境では、本設定は不要です。	×		/etc/system		×		/etc/system			
	9-4-1		SPARC Enterprise M3000,M4000,M5000,M8000,M9000	RCIも使用する	RCI非同期監視使用の有無	必須	チェックする/チェックしない	チェックする			日本国内で富士通以外が提供もしくは日本以外の場合、"チェックしない"	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
	9-4-2			接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -m			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-4-3			XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されて	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-4-4			XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されて	任意						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-4-5			ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須					root以外	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-4-6			パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-4-7			ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須					platadm権限の付与が必要	×				×					
	9-4-8			Wait for PROM	Wait for PROMの設定	必須	チェックする/チェックしない	チェックしない			固定値です。デフォルトの設定に従い変更しないでください。	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/cldevparam -p WaitForPROM			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/cldevparam				
	9-4-9			ハードウェアの選択	使用するハードウェアの選択	必須	日本国内で富士通以外が提供したハードウェア/日本国外で富士通・Oracle両社のロゴを配したハードウェア/上記以外					○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			
	9-5-1		SPARC Enterprise T5120,T5220,T5140,T5240,T5440 SPARC T3,T4,T5,T7,S7シリーズ	ILOM名	ILOMのIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されている	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-5-2			ユーザ名	ILOMへログインするためのユーザ名	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-5-3			パスワード	ILOMへログインするためのパスワード	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
	9-5-4			CLIモード	ILOMへログインするためのユーザのCLIモード	必須	デフォルトモード/alomモード	デフォルトモード			デフォルトモードにしてください。	×				×					
	9-5-5			ユーザ権限	ILOMへログインするためのユーザの権限	必須					ILOM3.0の場合 以下のいずれかが設定されている必要があります。 ○keyswitch_state パラメータが normal の場合 ・Console, Reset and Host Control, Read Only (cro) ・Operator ○keyswitch_state パラメータが locked の場合 ・Admin, Console, Reset and Host Control, Read Only (acro) ・Administrator	×				×					
	9-6-1		SPARC Enterprise T1000,T2000	ALOM名	ALOMのIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg			
	9-6-2			ユーザ名	ALOMへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg			
	9-6-3			パスワード	ALOMへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg			
	9-6-4			ユーザ権限	ALOMへログインするためのユーザの権限	必須					cレベル(コンソールアクセス)権限の付与が必要	×				×					

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	9-7-1			SPARC M10,M12 Oracle Solaris カーネルゾーンの場合	ユーザID(グローバルゾーンホスト)	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホストへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
	9-7-2				ゾーン名	カーネルゾーン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-7-3				グローバルゾーンホスト名	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホスト(制御ドメインまたはゲストドメイン)のIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-7-4				ユーザ名	グローバルゾーンホストへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-7-5				パスワード	グローバルゾーンホストへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-7-6				非同期監視サブLANIPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-7				PPAR-ID	PPARのID	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-8				ドメイン名	ノードのドメイン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-9				接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh				○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-10				XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-11				XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-12				ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須					root以外	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-13				パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-7-14				ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須					platadm権限の付与が必要	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-1			SPARC T4,T5,T7,S7シリーズ Oracle Solaris カーネルゾーンの場合	ユーザID(グローバルゾーンホスト)	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホストへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
	9-8-2				ゾーン名	カーネルゾーン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-3				グローバルゾーンホスト名	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホスト(制御ドメインまたはゲストドメイン)のIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-4				ユーザ名	グローバルゾーンホストへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-5				パスワード	グローバルゾーンホストへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-6				ILOM名	ILOMのIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホ	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-7				ユーザ名	ILOMへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-8				パスワード	ILOMへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-9				CLIモード	ILOMへログインするためのユーザのCLIモード	必須	デフォルトモード/alomモード	デフォルトモード			デフォルトモードにしてください。	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-10				ユーザ権限	ILOMへログインするためのユーザの権限	必須					ILOM3.0の場合 以下のいずれかが設定されている必要があります。 ○keyswitch_state パラメータが normal の場合 ・Console, Reset and Host Control, Read Only (cro) ・Operator ○keyswitch_state パラメータが locked の場合 ・Admin, Console, Reset and Host Control, Read Only (acro) ・Administrator	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-9-1			SPARC M10,M12 ICMPシャットダウンエージェントを使用する場合	IPアドレス数	各ノードの生存確認に使用するためのIPアドレス数	必須	1-10														
	9-9-2				IPアドレス1	クラスタインタコネクト (CIPのIPアドレス)	任意															
	9-9-3				IPアドレス2	業務LANまたは管理LAN (標準ポートのIPアドレス)	任意															
	9-9-4				IPアドレス3	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-5				IPアドレス4	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-6				IPアドレス5	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-7				IPアドレス6	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-8				IPアドレス7	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-9				IPアドレス8	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-10				IPアドレス9	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-11				IPアドレス10	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
10			共用ディスク装置使用の有無			共用ディスク装置を使用するかどうか選択	必須			有												
11			scsi-initiator-id (OBP変数 #eepromコマンド)				任意			7												
12	12-1		SCSI／ファイバーチャネル		経路(パス)数		任意			2												
	12-2				デバイスパス名#1		任意			fjpfca#0												
	12-3				sd デバイス名		任意			sd11～sd42												
	12-4				デバイスパス名#2		任意			fjpfca#1												
	12-5				sd デバイス名		任意			sd43～sd74												
13	13-1		管理LAN		IPアドレス	管理LANのIPアドレス	必須			192.168.1.1												
	13-2				サブネットマスク	管理LANのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	13-3				デバイス名	管理LANのNIC名	必須			net0												
14	14-1		非同期監視サブLAN		IPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	任意			192.168.11.1												
	14-2				サブネットマスク	非同期監視サブLANのサブネットマスク	任意			255.255.255.0		SPARC M シリーズの場合										
	14-3				デバイス名	非同期監視サブLANのNIC名	任意			net4												
15	15-1		業務LAN#1		IPアドレス	業務LANのIPアドレス	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	15-2				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	15-3				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net2												
16	16-1		業務LAN#2		IPアドレス	業務LANのIPアドレス	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	16-2				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	16-3				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net6												
17			CLUSTER_LINKDOWN_ACTION			NIC のリンクダウンイベントを検出場合にCFハートビートの動作を変更するオプション	任意	ON OFF	OFF				×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
18			CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLY			CFハートビートタイムアウト時の動作を変更するオプション	任意	ON OFF	ON				×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
19	19-1		ノングローバルゾーン	ゾーン名(zonename)		ノングローバルゾーンのゾーン名	必須			zone												
	19-2			ノード名(uname -n)		ノングローバルゾーンのノード名	必須			zone1												
	19-3			業務LAN#1	IPアドレス	業務LANのIPアドレス	必須			172.16.0.21												
	19-4				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	19-5				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net2												
	19-6			業務LAN#2	デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net6												
1			ノード名(uname -n)			2ノード目のノード名(uname -n)	必須			node2												
2			CFノード名			CFで使用するノード名	必須	11文字以下の英小文字・数字・記号(-, _)	ノード名	node2		CFノード名の先頭文字には、英小文字を設定してください。	○	cfconfig	/etc/defaut/cluster		○		/etc/defaut/cluster			
3	3-1		インタコネクト	IPアドレス		クラスタインタコネクトのIPアドレス	必須			192.168.0.2			○		/etc/hosts, /etc/cip.cf		×		/etc/hosts, /etc/cip.cf			
	3-2			サブネットマスク		クラスタインタコネクトのサブネットマスク	必須			255.255.255.0			○		/etc/cip.cf		×		/etc/cip.cf			
	3-3			デバイス名		クラスタインタコネクトのNIC名	必須			net1,net3			○	cfconfig	/etc/default/cluster		○		/etc/default/cluster			
4			CFクォーラムセットのノードである			CFクォーラムセットのノードかどうか選択	必須	Yes/No	Yes	Yes		[]デフォルト 固定値です。デフォルトの設定に従い変更しないでください。	○	rqcconfig			○	rqcconfig				
5			CFのクラスタタイムアウト(CLUSTER_TIMEOUT)			CFのクラスタタイムアウト値	必須	1－MAXINT (MAXINT は2,147,483,647)	10	10			×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
6			RMSでの使用の有無			RMSを使用するかどうか選択	必須	使用する/使用しない	使用しない	RMSで使用する			○		/etc/hosts,		×		/etc/hosts,			
			SysNode名				必須		<CFノード名>RMS	node2RMS		デフォルト値固定	○				×	hvw				
7			RCI		アドレス	RCIアドレス	任意					RCI非同期監視使用時のみ	×				×	/usr/sbin/FJSVmadm/setrci stat				
8			カーネルパラメタ		scfd:scf_rdctrl_sense_wait		任意						×		/etc/system		×		/etc/system			
	9-1			weight(ノードの重み)		シャットダウン機構で使用するノードの重み	必須			1		SFにて使用する、クラスタパーティション時の生存優先度	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

9-2			管理LAN IPアドレス		管理LANのIPアドレス	必須			192.168.1.2			○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg				
9-3-1			SPARC M10,M12	非同期監視サブLANIPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	任意			192.168.11.2			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-2				PPAR-ID	PPARのID	必須			0			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-3				ドメイン名	ノードのドメイン名	必須			primary		制御ドメインの場合、"primary"を指定	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-4				接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh	ssh			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -m			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-5				XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須			XSCF3			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-6				XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	任意			XSCF4			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-7				ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須			user001		root以外	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-8				パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須			xscf			○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsnmpsetup -l				
9-3-9				ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須			platadm		platadm権限の付与が必要	×				×					
9-3-10			SPARC M10,M12 マイグレーション機能を使用する場合 制御ドメインでゲストドメインへの事前設定を行う場合	ユーザID(ゲストドメイン)	ゲストドメインへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
9-3-11				ゲストドメインの情報(制御ドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの情報	必須	*guest-name guest-clustername guest-cfname guest_ip guest-user* :					×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -a *guest-name guest-clustername guest-cfname guest_ip guest-user*			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -l				
9-3-12				シャットダウン機構の重み連携(制御ドメイン)	制御ドメインのシャットダウン機構とゲストドメインのシャットダウン機構の重みの連携を行うかの選択	任意	する/しない	する				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -w off			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clovmmigratesetup -l				
9-3-13				/etc/systemの設定(ゲストドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの/etc/systemの設定	任意	forceload: misc/klmmod				Solaris 11.1 の SRU 9.5.1 以降が適用されている環境では、本設定は不要です。	×		/etc/system		×		/etc/system				
9-3-14			SPARC M10,M12 マイグレーション機能を使用する場合 ゲストドメイン上で事前設	制御ドメインの情報(ゲストドメイン)	クラスタ構成ノードおよび移動先のサーバの情報	必須	*primary_IP primary_weight primary_PPAR-ID XSCF-name1 XSCF-name2* :					×		/etc/opt/FJSVcluster/etc/clovmmigrate.conf		×		/etc/opt/FJSVcluster/etc/clovmmigrate.conf				
9-3-15				/etc/systemの設定(ゲストドメイン)	マイグレーションで移動させる対象のゲストドメインの/etc/systemの設定	任意	forceload: misc/klmmod				Solaris 11.1 の SRU 9.5.1 以降が適用されている環境では、本設定は不要です。	×		/etc/system		×		/etc/system				
9-4-1			SPARC Enterprise M3000,M4000,M5000,M8000,M9000	RCIも使用する	RCI非同期監視使用の有無	必須	チェックする/チェックしない	チェックする			日本国内で富士通以外が提供もしくは日本以外の場合、"チェックしない"	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg				
9-4-2				接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -m			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-4-3				XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されて	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-4-4				XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されて	任意						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-4-5				ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須					root以外	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-4-6				パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-4-7				ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須					platadm権限の付与が必要	×				×					
9-4-8				Wait for PROM	Wait for PROMの設定	必須	チェックする/チェックしない	チェックしない			固定値です。デフォルトの設定に従い変更しないでください。	○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/cldevparam -p WaitForPROM			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/cldevparam				
9-4-9				ハードウェアの選択	使用するハードウェアの選択	必須	日本国内で富士通以外が提供したハードウェア/日本国外で富士通・Oracle両社のロゴを配したハードウェア/上記以外					○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/rcsd.cfg				
9-5-1			SPARC Enterprise T5120,T5220,T5140,T5240,T5440 SPARC T3,T4,T5,T7,S7シリーズ	ILOM名	ILOMのIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されている	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-5-2				ユーザ名	ILOMへログインするためのユーザ名	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-5-3				パスワード	ILOMへログインするためのパスワード	必須						○	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -a			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clrccusetup -l				
9-5-4				CLIモード	ILOMへログインするためのユーザのCLIモード	必須	デフォルトモード/alomモード	デフォルトモード			デフォルトモードにしてください。	×				×					
9-5-5		シャットダウン機構(SF)		ユーザ権限	ILOMへログインするためのユーザの権限	必須					ILOM3.0の場合 以下のいずれかが設定されている必要があります。 ○keyswitch_state パラメータが normal の場合 ・Console, Reset and Host Control, Read Only (cro) ・Operator ○keyswitch_state パラメータが locked の場合 ・Admin, Console, Reset and Host Control, Read Only (acro) ・Administrator	×				×					
9-6-1			SPARC Enterprise T1000,T2000	ALOM名	ALOMのIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg				
9-6-2				ユーザ名	ALOMへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg				
9-6-3				パスワード	ALOMへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA sunF.cfg				
9-6-4				ユーザ権限	ALOMへログインするためのユーザの権限	必須					cレベル(コンソールアクセス)権限の付与が必要	×									
9-7-1			SPARC M10,M12 Oracle Solaris カーネルゾーンの場合	ユーザID(グローバルゾーンホスト)	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホストへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
9-7-2				ゾーン名	カーネルゾーン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				
9-7-3				グローバルゾーンホスト名	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホスト(制御ドメインまたはゲストドメイン)のIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				
9-7-4				ユーザ名	グローバルゾーンホストへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				
9-7-5				パスワード	グローバルゾーンホストへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				
9-7-6				非同期監視サブLANIPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-7				PPAR-ID	PPARのID	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-8				ドメイン名	ノードのドメイン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-9				接続種別	XSCFへの接続方法	必須	ssh/telnet	ssh				○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-10				XSCF名1	XSCF-LAN#0のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-11				XSCF名2	XSCF-LAN#1のIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホスト名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-12				ユーザ名	XSCFへログインするためのユーザ名	必須					root以外	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-13				パスワード	XSCFへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-7-14				ユーザ権限	XSCFへログインするためのユーザの権限	必須					platadm権限の付与が必要	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg				
9-8-1				ユーザID(グローバルゾーンホスト)	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホストへログインするためのシャットダウン機構用のユーザID	必須					一般ユーザまたはrootユーザの使用が可能です。	×				×					
9-8-2				ゾーン名	カーネルゾーン名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				
9-8-3				グローバルゾーンホスト名	カーネルゾーンが動作するグローバルゾーンホスト(制御ドメインまたはゲストドメイン)のIPアドレス	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg				

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	9-8-4			SPARC T4,T5,T7,S7シリーズ Oracle Solaris カーネルゾーンの場合	ユーザ名	グローバルゾーンホストへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-5				パスワード	グローバルゾーンホストへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzone.cfg			
	9-8-6				ILOM名	ILOMのIPアドレスまたは/etc/inet/hostsに登録されているホ	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-7				ユーザ名	ILOMへログインするためのユーザ名	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-8				パスワード	ILOMへログインするためのパスワード	必須						○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-9				CLIモード	ILOMへログインするためのユーザのCLIモード	必須	デフォルトモード/alomモード	デフォルトモード			デフォルトモードにしてください。	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-8-10				ユーザ権限	ILOMへログインするためのユーザの権限	必須					ILOM3.0の場合 以下のいずれかが設定されている必要があります。 ○keyswitch_state パラメータが normal の場合 ・Console, Reset and Host Control, Read Only (cro) ・Operator ○keyswitch_state パラメータが locked の場合 ・Admin, Console, Reset and Host Control, Read Only (acro) ・Administrator	○		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg		×		/etc/opt/SMAW/SMAWsf/SA kzchkhost.cfg			
	9-9-1			SPARC M10,M12 1CMPシャットダウンエージェントを使用する場合	IPアドレス数	各ノードの生存確認に使用するためのIPアドレス数	必須	1-10														
	9-9-2				IPアドレス1	クラスタインタコネクト（CIPのIPアドレス）	任意															
	9-9-3				IPアドレス2	業務LANまたは管理LAN（標準ポートのIPアドレス）	任意															
	9-9-4				IPアドレス3	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-5				IPアドレス4	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-6				IPアドレス5	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-7				IPアドレス6	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-8				IPアドレス7	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-9				IPアドレス8	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-10				IPアドレス9	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
	9-9-11				IPアドレス10	各ノードの生存確認に使用するIPアドレス	任意															
10			共用ディスク装置使用の有無			共用ディスク装置を使用するかどうか選択	必須			有												
11			scsi-initiator-id （OBP変数 #eepromコマンド）				任意			7												
12	12-1		SCSI／ファイバーチャネル		経路(パス)数		任意			2												
	12-2				デバイスパス名#1		任意			fjpfca#0												
	12-3				sd デバイス名		任意			sd11～sd42												
	12-4				デバイスパス名#2		任意			fjpfca#1												
	12-5				sd デバイス名		任意			sd43～sd74												
13	13-1		管理LAN		IPアドレス	管理LANのIPアドレス	必須			192.168.1.2												
	13-2				サブネットマスク	管理LANのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	13-3				デバイス名	管理LANのNIC名	必須			net0												
14	14-1		非同期監視サブLAN		IPアドレス	非同期監視サブLANのIPアドレス	任意			192.168.11.2												
	14-2				サブネットマスク	非同期監視サブLANのサブネットマスク	任意			255.255.255.0			SPARC M シリーズの場合									
	14-3				デバイス名	非同期監視サブLANのNIC名	任意			net4												
15	15-1		業務LAN#1		IPアドレス	業務LANのIPアドレス	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	15-2				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	15-3				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net2												
16	16-1		業務LAN#2		IPアドレス	業務LANのIPアドレス	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	16-2				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	任意					GLSを使用しないため設定不要										
	16-3				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net6												
17			CLUSTER_LINKDOWN_ACTION			NIC のリンクダウンイベントを検出場合にCFハートビートの動作を変更するオプション	任意	ON OFF	OFF				×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
18			CLUSTER_NODEDOWN_HTBTRPLY			CFハートビートタイムアウト時の動作を変更するオプション	任意	ON OFF	ON				×	cfset	/etc/default/cluster.config		×	cfset	/etc/default/cluster.config			
19	19-1		ノングローバルゾーン	ゾーン名(zonename)		ノングローバルゾーンのゾーン名	必須			zone												
	19-2			ノード名(uname -n)		ノングローバルゾーンのノード名	必須			zone2												
	19-3			業務LAN#1	IPアドレス	業務LANのIPアドレス	必須			172.16.0.22												
	19-4				サブネットマスク	業務LANのサブネットマスク	必須			255.255.255.0												
	19-5			業務LAN#2	デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net2												
	19-6				デバイス名	業務LANのNIC名	必須			net6												

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	共用ディスク接続確認設定

操作概要		
	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
			大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG(キー名)	GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG(キー名)		
1	1-1		共用ディスク接続確認	属性	使用する	共用ディスク接続確認を使用する	任意	◇Yes ◇No	No				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetacfparam -p auto			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clsetacfparam -p				
	1-2				異常検出時にRMSの起動を抑止する	共用ディスク装置に異常を検知した際に、RMSの起動を抑止する	任意	◇Yes ◇No	No				×		Yesの場合、/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.localに以下を追加 export RELIANT_INITSCRIPT=/etc/opt/FJSVcluster/bin/clinitscript		×		/opt/SMAW/SMAWRrms/bin/hvenv.local			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	Cmdlineリソース設定

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 OFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 OFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1	1-1		リソースの動作	属性	InParallel	複数のリソースを起動・停止する際に、並行処理するか、順に処理するかを指定	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	1-2				NeedAll	複数のリソースを並行処理で起動する際に、「No」設定時はリソースが1つでもOnlineになると上位リソースのOnline処理を開始する。「Yes」設定時は、全ての監視対象がOnlineとなる必要あり。	任意	◇Yes ◇No	No	No		特に指示がない限り変更しないでください。	○				○					
	1-3			関連付け	SubApplication	リソースに関連するサブアプリケーション	任意						○				○					
2	2-1		制御対象	オブジェクト	Startスクリプト	Startスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/SMAW/bin/hvzone -c -z zone -a user		※制御対象が複数ある場合は、行をコピーして使用	○				○					
	2-2				Stopスクリプト	Stopスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/SMAW/bin/hvzone -u -z zone -a userApp 1 -n -t 200			○				○					
	2-3				Checkスクリプト	Checkスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/SMAW/bin/hvzone -m -z zone -a userApp 1 -n -t 200			○				○					
	2-4			Flag	NULLDETECTOR	Checkスクリプトを無効にするか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	No		NULLDETECTOR フラグを設定した場合の注意事項については、「PRIMECLUSTER 導入運用手引書 "NULLDETECTOR フラグを設定した場合の注意事項"」を参照願います。	○				○					
	2-5				ALLEXITCODES	CheckスクリプトでOnline/Offline以外を通知できるようにする	任意	◇Yes ◇No	No	Yes			○				○					
	2-6				LIEOFFLINE	Yesの場合、Offline処理実行時にCheckスクリプトの復帰値に関わらず、リソースはOfflineを通知する。	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-7				CLUSTEREXCLUSIVE	Yesの場合、クラスタ内の任意の1ノード上でのみリソースがonlineとなる。Noの場合、クラスタ内の複数ノード上で同時にリソースをonlineにすることが可能。	任意	◇Yes ◇No	Yes	Yes			○				○					
	2-8				AUTORECOVER	リソース故障を検出した場合に自動回復を1度試みるかどうかを選択	任意	◇Yes ◇No	Yes	No			○				○					
	2-9				MONITORONLY	Yesの場合、リソース異常が発生しても、このリソースを管理するアプリケーションに異常を通知しない。	任意	◇Yes ◇No	No	No		この属性は使用できません。変更しないでください。	○				○					
	2-10				STANDBYCAPABLE	このリソースを管理するアプリケーションにスタンバイ処理を実行するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	Yes		スタンバイ状態を通知するには、ALLEXITCODESをYesに設定する必要があります。	○				○					
	2-11				REALTIME	Yesの場合、CheckスクリプトをRTクラスで実行する。Noの場合はTSクラスで実行する。	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-12				TIMEOUT	Cmdlineリソースの活性、非活性処理時の待ち合わせ時間を指定	任意	45～31535999	300	300			○				○					

ノングローバルゾーン

1	1-1		リソースの動作	属性	InParallel	複数のリソースを起動・停止する際に、並行処理するか、順に処理するかを指定	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	1-2				NeedAll	複数のリソースを並行処理で起動する際に、「No」設定時はリソースが1つでもOnlineになると上位リソースのOnline処理を開始する。「Yes」設定時は、全ての監視対象がOnlineとなる必要あり。	任意	◇Yes ◇No	No	No		特に指示がない限り変更しないでください。	○				○					
	1-3			関連付け	SubApplication	リソースに関連するサブアプリケーション	任意						○				○					
2	2-1		制御対象	オブジェクト	Startスクリプト	Startスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/pcl/sample/script.sample -c		※制御対象が複数ある場合は、行をコピーして使用	○				○					
	2-2				Stopスクリプト	Stopスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/pcl/sample/script.sample -u			○				○					
	2-3				Checkスクリプト	Checkスクリプトが格納されるパス名を指定	任意			/opt/pcl/sample/sample.check			○				○					
	2-4			Flag	NULLDETECTOR	Checkスクリプトを無効にするか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	No		NULLDETECTOR フラグを設定した場合の注意事項については、「PRIMECLUSTER 導入運用手引書 "NULLDETECTOR フラグを設定した場合の注意事項"」を参照願います。	○				○					
	2-5				ALLEXITCODES	CheckスクリプトでOnline/Offline以外を通知できるようにする	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-6				LIEOFFLINE	Yesの場合、Offline処理実行時にCheckスクリプトの復帰値に関わらず、リソースはOfflineを通知する。	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-7				CLUSTEREXCLUSIVE	Yesの場合、クラスタ内の任意の1ノード上でのみリソースがonlineとなる。Noの場合、クラスタ内の複数ノード上で同時にリソースをonlineにすることが可能。	任意	◇Yes ◇No	Yes	Yes			○				○					
	2-8				AUTORECOVER	リソース故障を検出した場合に自動回復を1度試みるかどうかを選択	任意	◇Yes ◇No	Yes	Yes			○				○					
	2-9				MONITORONLY	Yesの場合、リソース異常が発生しても、このリソースを管理するアプリケーションに異常を通知しない。	任意	◇Yes ◇No	No	No		この属性は使用できません。変更しないでください。	○				○					
	2-10				STANDBYCAPABLE	このリソースを管理するアプリケーションにスタンバイ処理を実行するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	No		スタンバイ状態を通知するには、ALLEXITCODESをYesに設定する必要があります。	○				○					
	2-11				REALTIME	Yesの場合、CheckスクリプトをRTクラスで実行する。Noの場合はTSクラスで実行する。	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-12				TIMEOUT	Cmdlineリソースの活性、非活性処理時の待ち合わせ時間を指定	任意	45～31535999	300	300			○				○					

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	Fsystemリソース設定

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備　考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 OFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 OFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1	1-1		リソースの動作	属性	NeedAll	複数のリソースを並行処理で起動する際に、「No」設定時はリソースが1つでもOnlineになると上位リソースのOnline処理を開始する。「Yes」設定時は、全ての監視対象がOnlineとなる必要あり。	任意	◇Yes ◇No	Yes	Yes		特に指示がない限り、Yesに設定してください。	○				○					
	1-2				Timeout	Fsystemの活性、非活性処理時の待ち合わせ時間を指定	任意	45～3600	180	180		Fsystemリソース内に31個以上のマウントポイントを作成する場合、「Fsystemリソース内のマウントポイント数 × 6」秒に変更する必要があります。	○				○					
2	2-1		制御対象1	オブジェクト	マウントポイント	Fsystemをマウントする場合に使用するマウントポイントを指定	任意			/app		※制御対象が3つ以上の場合は、行をコピーして使用	×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl		×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl			
	2-2			Flag	AUTORECOVER	ファイルシステムがアンマウントされた場合、自動的にマウントするか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	Yes	No			○				○					
	2-3				SHARE	NFSを使用するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-4				NFSLOCKFAILOVER	NFSのファイルロック情報を格納するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No	No			○				○					
	2-5		制御対象2	オブジェクト	マウントポイント	Fsystemをマウントする場合に使用するマウントポイントを指定	任意						×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl		×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl			
	2-6			Flag	AUTORECOVER	ファイルシステムがアンマウントされた場合、自動的にマウントするか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	Yes				○				○					
	2-7				SHARE	NFSを使用するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No				○				○					
	2-8				NFSLOCKFAILOVER	NFSのファイルロック情報を格納するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No				○				○					
	2-9		制御対象3	オブジェクト	マウントポイント	Fsystemをマウントする場合に使用するマウントポイントを指定	任意						×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl		×		/etc/vfstab.pcl /etc/dfs/dfstab.pcl			
	2-10			Flag	AUTORECOVER	ファイルシステムがアンマウントされた場合、自動的にマウントするか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	Yes				○				○					
	2-11				SHARE	NFSを使用するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No				○				○					
	2-12				NFSLOCKFAILOVER	NFSのファイルロック情報を格納するか否かを選択	任意	◇Yes ◇No	No				○				○					

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	Gdsリソース設定

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備　考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
		大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG（キー名）	GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG（キー名）		
1		リソースの動作	属性	用途	排他使用するかどうかを選択	任意	排他使用 ◇[する] HotStandby運用 ◇する ◇[しない] ◇しない	排他使用 する HotStandby運用 しない	排他使用 する HotStandby運用 しない			○				○					
2				AutoRecover	リソース故障を検出した場合に自動回復をするか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No	No			○				○					
3				Timeout	DiskClassの活性、非活性処理時の待ち合わせ時間を指定	任意	5～3600	1800	1800			○				○					
4		制御対象1	オブジェクト	Disk Class	GDSのDiskクラスを指定	任意			class01		※制御対象が3つ以上の場合は、行をコピーして使用	○				○					
5			Flag	MONITORONLY	リソース異常が発生した場合に、フェイルオーバさせるか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No	No			○				○					
6		制御対象2	オブジェクト	Disk Class	GDSのDiskクラスを指定	任意						○				○					
7			Flag	MONITORONLY	リソース異常が発生した場合に、フェイルオーバさせるか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No				○				○					
8		制御対象3	オブジェクト	Disk Class	GDSのDiskクラスを指定	任意						○				○					
9			Flag	MONITORONLY	リソース異常が発生した場合に、フェイルオーバさせるか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No				○				○					

GDS：Global Disk Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	Glaリソース設定

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
		大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	OFMG(キー名)	GUI	コマンド名	ファイル名	OFMG(キー名)		
1		リソースの動作	属性	Timeout	GLSの活性、非活性処理時の待ち合わせ時間を指定	任意	5～300	60	60			○				○					
2				SubApplication	リソースに関連するサブアプリケーション	任意						○				○					
3		制御対象1	オブジェクト	引継IPアドレス(IPv4)	IPv4の引継ぎIPアドレスを指定	任意			172.16.0.53			○				○					
4				引継IPアドレス(IPv6)	IPv6の引継ぎIPアドレスを指定	任意						○				○					
5			Flag	AUTORECOVER	リソース故障を検出した場合に自動回復をするか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No	No			○				○					
6		制御対象2	オブジェクト	引継IPアドレス(IPv4)	IPv4の引継ぎIPアドレスを指定	任意						○				○					
7				引継IPアドレス(IPv6)	IPv6の引継ぎIPアドレスを指定	任意						○				○					
8			Flag	AUTORECOVER	リソース故障を検出した場合に自動回復をするか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No				○				○					
9		制御対象3	オブジェクト	引継IPアドレス(IPv4)	IPv4の引継ぎIPアドレスを指定	任意						○				○					
10				引継IPアドレス(IPv6)	IPv6の引継ぎIPアドレスを指定	任意						○				○					
11			Flag	AUTORECOVER	リソース故障を検出した場合に自動回復をするか否かを選択	任意	◇Yes　◇[No]	No				○				○					

GLS:Global Link Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ
機能名	Oracleリソース設定

操作概要		
	GUI設定	PRIMECLUSTER のWeb-Based Admin Viewを開く－userApplication Configuration Wizardを開く－「Resource の作成」を選択します－Resource タイプで「Oracle」を選択します
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 OFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 OFMG(キー名)	設定値制限	自由入力欄
0												全体の注意事項です。 ・本設定は、PRIMECLUSTER本体が提供するクラスタサービス設定ツール(userApplication Configuration Wizard)のOracleリソースのみを作成します。 ・No.1、2を行った後、No.3～7の設定のいずれかを選択し、設定を進めます。 ・1つのOracleリソースには、No.3～7の複数のサブリソースを作成できます。 ただし、No.3、4のいずれかを設定するとNo.5～7の設定は非表示になります。逆に、No.5～7のいずれかを設定すると、No.3、4が非表示になります。 ・本設定で設定した内容は、PRIMECLUSTER内部で管理するファイルに出力されます。											
1			リソース名			リソース名です。	必須	任意の文字列	Oracle1	Oracle1			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
2			起動優先度			Oracle インスタンスとリスナーの起動順序を設定します。	必須	Same、Instance、Listener	Same	Same			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
3	3-1		Oracleインスタンスの追加	Oracleインスタンス名		Oracleインスタンス名（OracleSID)を入力します。	必須	任意の文字列	なし	orcl2			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-2			Oracleユーザー		・Oracle インスタンスリソースの場合、または、ASM インスタンスリソース(Oracle 10g R2/11g R1)の場合 OSDBA グループに所属する OS ユーザーを入力します。 ・ASM インスタンスリソース(Oracle 11g R2/12c R1)の場合 Grid ユーザーを入力します。	必須	任意の文字列	なし	oracle2			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-3			起動タイムアウト		Oracle 起動処理のタイムアウト時間(秒)	必須	300～86400の整数値	600	600			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-4			停止タイムアウト		Oracle 停止処理のタイムアウト時間(秒)	必須	60～86400の整数値	180	180			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-5			強制停止タイムアウト		Oracle 停止エラー時の強制終了処理のタイムアウト時間(秒)	必須	60～86400の整数値	60	60			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-6			Oracle停止モード(通常時)		正常時の Oracle 停止モード	必須	abort、immediate、transactional	immediate	immediate			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-7			Oracle停止モード(異常時)		異常時の Oracle 停止モード	必須	abort、immediate	abort	abort			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-8			監視間隔		Oracle インスタンスの監視間隔(秒)	必須	5～86400の整数値	30	30			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-9			監視タイムアウト		Oracle 応答なしと見なす時間(秒)	必須	30～3600の整数値	300	300			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-10			REDOログ適用方法		Oracle Data Guard環境におけるスタンバイ・データベースでのREDOログ適用方法。ASMインスタンスリソース、プライマリ・データベースのOracle インスタンスリソース、Oracle Data Guardを使用しない環境のOracleインスタンスリソースでは、設定は無視されます。 － ReceiveOnly (ログ適用サービスを開始しません) － NormalApply (通常モードでログ適用サービスを開始) － RealTimeApply (リアルタイム適用でログ適用サービスを開始) － ReadOnlyOPEN (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、ログ適用サービスを開始しません) － RealTimeQueryN (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、通常モードでログ適用サービスを開始) － RealTimeQueryR (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、リアルタイム適用でログ適用サービスを開始)	必須	ReceiveOnly、NormalApply、RealTimeApply、ReadOnlyOPEN、RealTimeQueryN、RealTimeQueryR	NormalApply	NormalApply			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-11			PDBを使用		マルチテナント機能を使用したOracleデータベースでPDBを使用するかどうか設定します。ASMインスタンスリソースでは、設定は無視されます。 － yes (PDBを使用します) － no (PDBを使用しません)	必須	yes、no	no	no			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-12			PreOnlineScript		オンライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし		Oracle 11gR2 でASM を使用する場合、ASM インスタンスリソースの PreOnlineScript に以下のスクリプトを設定してください。 /opt/FJSVclora/sbin/cloracsswait <Grid ユーザー名>	○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-13			PostOnlineScript		オンライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-14			PreOfflineScript		オフライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-15			PostOfflineScript		オフライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-16			FaultScript		Fault 発生時に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	3-17			フラグ設定値		ディテクタの動作を制御するためのフラグの設定を行います。フラグの設定値は、各属性のシンボルをまとめた文字列で示されます。 － AUTORECOVER(A): この属性を有効に設定すると、Oracleインスタンスリソースにおいて、障害が発生した場合に復旧を試みます。 － MONITORONLY(M): この属性を有効に設定すると、Oracleインスタンスリソースにおいて障害が発生した場合に、userApplicationの状態がFaultedになりません。 － NULLDETECTOR(D): この属性を有効に設定すると、リソースの状態を決定するための監視を行いません。ディテクタは、起動処理、停止処理のみ行います。 ASMインスタンスのリソースには自動的にNULLDETECTOR属性が有効になり、変更できません。	必須	なし、A、M、AM、D	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-1			Oracleリスナー名		Oracleリスナー名を入力します。	必須	任意の文字列	なし	LISTENER			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-2			Oracleユーザー		・Oracle リスナーリソース(Oracle 10g R2/11g R1)の場合、または、Oracleリスナーリソース(Oracle 11g R2 で ASM を使用しない)の場合 Oracle リスナーを制御する OS ユーザーを入力します。 ・Oracle リスナーリソース(Oracle 11g R2 /12c R1で ASM を使用する)の場合 Grid ユーザーを入力します。	必須	任意の文字列	なし	oracle2			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-3			OracleTNS名		Oracle リスナー監視で使用するネット・サービス名。TNSNameが設定されると Oracle リスナーの監視のために tnsping コマンドを実行します。 tnsnames.ora で設定した値です。	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-4			起動タイムアウト		Oracle リスナー起動処理のタイムアウト時間(秒)	必須	120～86400の整数値	180	180			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-5			停止タイムアウト		Oracle リスナー停止処理のタイムアウト時間(秒)	必須	60～86400の整数値	60	60			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

4	4-6		Oracleリスナーの追加	監視間隔	Oracle リスナーの監視間隔(秒)	必須	5～86400の整数値	30	30			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-7			監視タイムアウト	Oracle リスナー監視時に Oracle リスナー応答なしと見なす時間(秒)	必須	30～3600の整数値	300	300			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-8			PreOnlineScript	オンライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-9			PostOnlineScript	オンライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-10			PreOfflineScript	オフライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-11			PostOfflineScript	オフライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-12			FaultScript	Fault 発生時に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし	なし			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	4-13			フラグ設定値	ディテクタの動作を制御するためのフラグの設定を行います。 フラグの設定値は、各属性のシンボルをまとめた文字列で示されます。 － AUTORECOVER(A): この属性を有効に設定すると、Oracleリスナーのリソースにおいて、障害が発生した場合に復旧を試みます。 － MONITORONLY(M): この属性を有効に設定すると、Oracleリスナーのリソースにおいて障害が発生した場合に、userApplicationの状態がFaultedになりません。 － NULLDETECTOR(D): この属性を有効に設定すると、リソースの状態を決定するための監視を行いません。ディテクタは、起動処理、停止処理のみ行います。	必須	なし、A、M、AM、D	A	A			○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
5	5-1		Oracle RAC 11gR2/12cR1のインスタンスリソースの追加	OracleRACインスタンス名	Oracle RAC インスタンス名を入力します。	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-2			Oracleユーザー	Oracle Database のインストールユーザー	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-3			Oracleホーム	Oracle Database のインストールディレクトリ	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-4			Gridユーザー	Oracle Grid Infrastructure のインストールユーザー	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-5			Gridホーム	Oracle Grid Infrastructure のインストールディレクトリ	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-6			ScriptTimeout	次の処理のタイムアウト時間(秒) - Oracle RAC インスタンスリソースの起動処理 - Oracle RAC インスタンスリソースの停止処理 - PreOnlineScript - PostOnlineScript - PreOfflineScript - PostOfflineScript - FaultScript	必須	300～86400の整数値	900				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-7			復旧待ち時間	リソース異常発生時、Oracle Clusterware による復旧を待ち合わせる時間 - PersistentWarning (リソース復旧まで Warning通知) - ImmediateFault (リソース復旧を待たず Faulted通知) - 秒 (60 - 86400)	必須	PersistentWarning、ImmediateFault、60～86400の整数値	900				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-8			監視間隔	Oracle RAC インスタンスの監視間隔(秒)	必須	5～86400の整数値	60				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-9			監視タイムアウト	Oracle RAC インスタンスの応答なしと見なす時間(秒)	必須	30～3600の整数値	300				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-10			REDOログ適用方法	Oracle Data Guard環境におけるスタンバイ・データベースでのREDOログ適用方法。ASMインスタンスリソース、プライマリ・データベースのOracle インスタンスリソース、Oracle Data Guardを使用しない環境のOracleインスタンスリソースでは、設定は無視されます。 - ReceiveOnly (ログ適用サービスを開始しません) - NormalApply (通常モードでログ適用サービスを開始) - RealTimeApply (リアルタイム適用でログ適用サービスを開始) - ReadOnlyOPEN (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、ログ適用サービスを開始しません) - RealTimeQueryN (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、通常モードでログ適用サービスを開始) - RealTimeQueryR (フィジカル・スタンバイ・データベースの場合、読み取り専用でOPENして、リアルタイム適用でログ適用サービスを開始)	必須	ReceiveOnly、NormalApply、RealTimeApply、ReadOnlyOPEN、RealTimeQueryN、RealTimeQueryR	NormalApply				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-11			PreOnlineScript	オンライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし			Oracle Clusterware と Oracle RAC インスタンスを異なる userApplication に登録する場合、以下のスクリプトを設定してください。 /opt/FJSVclora/sbin/clorastartwait <Oracle Clusterware を含む userApplication>	○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-12			PostOnlineScript	オンライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-13			PreOfflineScript	オフライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-14			PostOfflineScript	オフライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-15			FaultScript	Fault 発生時に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	5-16			フラグ設定値	ディテクタの動作を制御するためのフラグの設定を行います。 フラグの設定値は、各属性のシンボルをまとめた文字列で示されます。 － NULLDETECTOR(D): この属性を有効に設定すると、リソースの状態を決定するための監視を行いません。ディテクタは、起動処理、停止処理のみ行います。	必須	なし、D	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
6	6-1		Oracle RAC 11gR2/12cR1のリスナーリソースの追加	OracleRACリスナー名	Oracle RAC リスナー名を入力します。	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-2			Gridユーザー	Oracle Grid Infrastructure のインストールユーザー	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-3			Gridホーム	Oracle Grid Infrastructure のインストールディレクトリ	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-4			ScriptTimeout	次の処理のタイムアウト時間(秒) - Oracle RAC リスナーリソースの起動処理 - Oracle RAC リスナーリソースの停止処理 - PreOnlineScript - PostOnlineScript - PreOfflineScript - PostOfflineScript - FaultScript	必須	300～86400の整数値	900				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-5			復旧待ち時間	リソース異常発生時、Oracle Clusterware による復旧を待ち合わせる時間 - PersistentWarning (リソース復旧まで Warning通知) - ImmediateFault (リソース復旧を待たず Faulted通知) - 秒 (60 - 86400)	必須	PersistentWarning、ImmediateFault、60～86400の整数値	PersistentWarning				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-6			監視間隔	Oracle RAC リスナーの監視間隔(秒)	必須	5～86400の整数値	60				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-7			監視タイムアウト	Oracle RAC リスナーの応答なしと見なす時間(秒)	必須	30～3600の整数値	300				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-8			PreOnlineScript	オンライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-9			PostOnlineScript	オンライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-10			PreOfflineScript	オフライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-11			PostOfflineScript	オフライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	6-12			FaultScript	Fault 発生時に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	6-13			フラグ設定値	ディテクタの動作を制御するためのフラグの設定を行います。 フラグの設定値は、各属性のシンボルをまとめた文字列で示されます。 － NULLDETECTOR(D): この属性を有効に設定すると、リソースの状態を決定するための監視を行いません。ディテクタは、起動処理、停止処理のみ行います。	必須	なし、D	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
7	7-1		Oracle 11gR2/12cR1のClusterwareリソースの追加	Gridユーザー	Oracle Grid Infrastructure のインストールユーザー	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-2			Gridホーム	Oracle Grid Infrastructure のインストールディレクトリ	必須	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-3			ScriptTimeout	次の処理のタイムアウト時間(秒) - Oracle Clusterware リソースの起動処理 - Oracle Clusterware リソースの停止処理 - PreOnlineScript - PostOnlineScript - PreOfflineScript - PostOfflineScript - FaultScript	必須	300～86400の整数値	600				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-4			PreOnlineScript	オンライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-5			PostOnlineScript	オンライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-6			PreOfflineScript	オフライン処理の前に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし			Oracle Clusterware と Oracle RAC インスタンスを異なる userApplication に登録する場合で、かつ KeepOnline フラグを無効に設定する場合、以下のスクリプトを設定してください。 ../opt/FJSVclora/sbin/clorastopwait <Oracle RAC インスタンスを含む userApplication>	○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-7			PostOfflineScript	オフライン処理の後に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-8			FaultScript	Fault 発生時に実行されるスクリプト	任意	任意の文字列	なし				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		
	7-9			フラグ設定値	ディテクタの動作を制御するためのフラグの設定を行います。 フラグの設定値は、各属性のシンボルをまとめた文字列で示されます。 － KEEPONLINE(K): この属性を有効に設定すると、Oracle Clusterwareを停止するスクリプトを設定しません。Oracle Clusterwareリソースを停止せず、ONLINE状態を維持します。	必須	なし、K	K				○	×	×	×	○	/opt/FJSVclora/bin/clorainfo -c	×	×		

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	クラスタアプリケーション設定

操作概要	GUI設定	
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備　考（GUI/CUIでの指定値）	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1			コンフィグレーション名			コンフィグレーション名	任意		config	config			○				○					
2			クラスタアプリケーション名			クラスタアプリケーションの名前	任意		userApp <数値>	userApp 0			○				○					
3			運用形態			クラスタアプリケーションの運用形態を選択	必須	Standby Scalable	Standby	Standby		Scalable は対応ミドルウェアからの指示がある場合に使用。 運用形態がStandbyの場合はNo. 4～9 を、Scalableの場合は No. 10, 11 を設定する。	○				○					
4	4-1		動作ノード		SysNode (優先度 1:高)	優先度1のノード名	任意		<CFノード名>RMS	node1RMS			○				○					
	4-2				SysNode (優先度 2)	優先度2のノード名	任意			node2RMS			○				○					
	4-3				SysNode (優先度 3)	優先度3のノード名	任意						○				○					
	4-4				SysNode (優先度 4:低)	優先度4のノード名	任意						○				○					
5	5-1		立上げ	立上げ時の運用ノード	OnlinePriority	RMS再起動時に、再起動前にアプリケーションがOnlineであったノードでアプリケーションをOnlineにしたい場合は1を指定する。0が指定された場合は、直起動前にアプリケーションがどのノード	任意	0/1	0	0			○				○					
	5-2												○				○					
	5-3			自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no	Yes			○				○					
	5-4												○				○					
6	6-1		切替え	切替え動作	AutoSwitchOver	クラスタアプリケーションの自動切り替えを行う条件を選択 NO: 自動切り替えなし HOSTFAILURE: ノード故障時 RESOURCEFAILURE: リソース故障時 SHUTDOWN: RMS停止時	任意	NO または、 HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の3つの組み合わせ	NO	HOSTFAILURE RESOURCEFAILURE SHUTDOWN		HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の全てを設定することを推奨しています。	○				○					
	6-2												○				○					
	6-3												○				○					
	6-4												○				○					
	6-5												○				○					
7	7-1		組込み	組込み動作	StandbyTransitions	クラスタアプリケーションを自動でStandbyにする条件を選択 NO: 自動でStandbyにしない CLEARFAULTREQUEST: 故障クリア時 STARTUP: RMS起動時 SWITCHREQUEST: アプリケーション切り替え時	任意	NO または、 CLEARFAULTREQUEST, STARTUP, SWITCHREQUEST の3つの組み合わせ	NO	CLEARFAULTREQUEST STARTUP SWITCHREQUEST			○				○					
	7-2												○				○					
	7-3												○				○					
	7-4												○				○					
	7-5												○				○					
8	8-1		故障発生時の動作	リソース非活性に失敗した場合の動作	HaltFlag	yesが指定された場合、二重故障発生時にノードを強制停止することで、クラスタアプリケーションの切り替えを行う。	任意	yes/no	no	yes		yesに設定することを推奨しています。 AutoSwitchOverにHOSTFAILUREが設定されていない場合、本機能は無効となります。	○				○					
	8-2												○				○					
	8-3			故障発生ノードの扱い	PersistentFault	クラスタアプリケーションのFault状態をRMS再起動後も維持するか否かを選択	任意	0: 維持しない 1: 維持する	0	1			○				○					
	8-4												○				○					
	8-5			クラスタインタコネクト障害時の動作	ShutdownPriority	アプリケーションの優先度を設定する。この値は、スプリットブレインが発生したときに生存させるノードを決定するために使用される。	任意	NONE または、0～20 （数字が大きいほど優先度は高い）	NONE	0			○				○					
	8-6												○				○					
9	9-1		構成	リソース		クラスタアプリケーションに含まれるリソースのリソース名	任意			Cmdline0 Gds0		指定リソース名	○				○					
	9-2			パトロール診断	診断の要否	パトロール診断をするか否かを選択	任意	◇要 ◇[不要]	不要	不要			○	なし			○	なし				
	9-3				監視間隔	パトロール診断を実施間隔(分)	任意	1～10080	360				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 INTERVAL=監視間隔			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-4				診断対象ディスク	診断を行うディスクのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象ディスク			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-5				診断対象ネットワーク	診断を行うネットワークのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象LAN			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-6			I/Oフェンシング		I/Oフェンシング機能を使用するか否かを選択	任意	◇要 ◇不要				Oracle VM Server for SPARC環境のゲストドメインでのみ設定する。デフォルト値はシステムの構成に応じて自動的に変わる。	○				○					
10			立上げ	自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no			以下の項目は、運用形態に「Scalable」を選択した場合のみ設定する。	○				○					
11	11-1		制御対象	スケーラブル運用するクラスタアプリケーション	userApplication	スケーラブル運用したいクラスタアプリケーションを選択	任意					※制御対象が複数ある場合は、行をコピーして使用	○				○					
	11-2			起動順番		上記のクラスタアプリケーションの起動順番を設定	任意	1～(スケーラブル運用するクラスタアプリケーションの個数)	1			他のuserApplicationと同じ起動順番を設定することも可能。	○				○					

ノングローバルゾーン(zone1)

1			コンフィグレーション名			コンフィグレーション名	任意		config	config			○				○					
2			クラスタアプリケーション名			クラスタアプリケーションの名前	任意		userApp,<数値>	userApp_1			○				○					
3			運用形態			クラスタアプリケーションの運用形態を選択	必須	Standby Scalable	Standby	Standby		Scalable は対応ミドルウェアからの指示がある場合に使用。 運用形態がStandbyの場合はNo. 4～9 を、Scalableの場合は No. 10, 11 を設定する。	○				○					
4	4-1		動作ノード		SysNode (優先度 1:高)	優先度1のノード名	任意		<CFノード名>RMS	zone1RMS			○				○					
	4-2				SysNode (優先度 2)	優先度2のノード名	任意						○				○					
	4-3				SysNode (優先度 3)	優先度3のノード名	任意						○				○					
	4-4				SysNode (優先度 4:低)	優先度4のノード名	任意						○				○					
5	5-1		立上げ	立上げ時の運用ノード	OnlinePriority	RMS再起動時に、再起動前にアプリケーションがOnlineであったノードでアプリケーションをOnlineにしたい場合は1を指定する。0が指定された場合は、直起動前にアプリケーションがどのノード	任意	0/1	0	0			○				○					
	5-2												○				○					
	5-3			自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no	No			○				○					
	5-4												○				○					
6	6-1		切替え	切替え動作	AutoSwitchOver	クラスタアプリケーションの自動切り替えを行う条件を選択 NO: 自動切り替えなし HOSTFAILURE: ノード故障時 RESOURCEFAILURE: リソース故障時 SHUTDOWN: RMS停止時	任意	NO または、 HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の3つの組み合わせ	NO	NO		HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の全てを設定することを推奨しています。	○				○					
	6-2												○				○					
	6-3												○				○					
	6-4												○				○					
	6-5												○				○					
7	7-1		組込み	組込み動作	StandbyTransitions	クラスタアプリケーションを自動でStandbyにする条件を選択 NO: 自動でStandbyにしない CLEARFAULTREQUEST: 故障クリア時 STARTUP: RMS起動時 SWITCHREQUEST: アプリケーション切り替え時	任意	NO または、 CLEARFAULTREQUEST, STARTUP, SWITCHREQUEST の3つの組み合わせ	NO	CLEARFAULTREQUEST STARTUP SWITCHREQUEST			○				○					
	7-2												○				○					
	7-3												○				○					
	7-4												○				○					
	7-5												○				○					
8	8-1		故障発生時の動作	リソース非活性に失敗した場合の動作	HaltFlag	yesが指定された場合、二重故障発生時にノードを強制停止することで、クラスタアプリケーションの切り替えを行う。	任意	yes/no	no	no		yesに設定することを推奨しています。 AutoSwitchOverにHOSTFAILUREが設定されていない場合、本機能は無効となります。	○				○					
	8-2												○				○					
	8-3			故障発生ノードの扱い	PersistentFault	クラスタアプリケーションのFault状態をRMS再起動後も維持するか否かを選択	任意	0: 維持しない 1: 維持する	0	1			○				○					
	8-4												○				○					
	8-5			クラスタインタコネクト障害時の動作	ShutdownPriority	アプリケーションの優先度を設定する。この値は、スプリットブレインが発生したときに生存させるノードを決定するために使用される。	任意	NONE または、0～20 （数字が大きいほど優先度は高い）	NONE	0			○				○					
	8-6												○				○					

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

9	9-1		構成	リソース		クラスタアプリケーションに含まれるリソースのリソース名	任意			Cmdline0 Fysytem0 Gls0 Oracle1		指定リソース名	○				○					
	9-2			パトロール診断	診断の要否	パトロール診断をするか否かを選択	任意	◇要 ◇[不要]	不要	不要			○	なし			○	なし				
	9-3				監視間隔	パトロール診断を実施間隔(分)	任意	1～10080	360				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 INTERVAL=監視間隔			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-4				診断対象ディスク	診断を行うディスクのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象ディスク			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-5				診断対象ネットワーク	診断を行うネットワークのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象LAN			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-6			I/Oフェンシング		I/Oフェンシング機能を使用するか否かを選択	任意	◇要 ◇不要				Oracle VM Server for SPARC環境のゲストドメインでのみ設定する。デフォルト値はシステムの構成に応じて自動的に変わる。	○				○					
10			立上げ	自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no			以下の項目は、運用形態に「Scalable」を選択した場合のみ設定する。	○				○					
11	11-1		制御対象	スケーラブル運用するクラスタアプリケーション	userApplication	スケーラブル運用したいクラスタアプリケーションを選択	任意					※制御対象が複数ある場合は、行をコピーして使用	○				○					
	11-2			起動順番		上記のクラスタアプリケーションの起動順番を設定	任意	1～(スケーラブル運用するクラスタアプリケーションの個数)	1			他のuserApplicationと同じ起動順番を設定することも可能。	○				○					

ノングローバルゾーン(zone2)

1			コンフィグレーション名			コンフィグレーション名	任意		config	config			○				○					
2			クラスタアプリケーション名			クラスタアプリケーションの名前	任意		userApp <数値>	userApp 1			○				○					
3			運用形態			クラスタアプリケーションの運用形態を選択	必須	Standby Scalable	Standby	Standby		Scalable は対応ミドルウェアからの指示がある場合に使用。運用形態がStandbyの場合はNo. 4～9 を、Scalableの場合は No. 10, 11 を設定する。	○				○					
4	4-1		動作ノード		SysNode (優先度 1.高)	優先度1のノード名	任意		<CFノード名>RMS	zone2RMS			○				○					
	4-2				SysNode (優先度 2)	優先度2のノード名	任意						○				○					
	4-3				SysNode (優先度 3)	優先度3のノード名	任意						○				○					
	4-4				SysNode (優先度 4.低)	優先度4のノード名	任意						○				○					
5	5-1		立上げ	立上げ時の運用ノード	OnlinePriority	RMS再起動時に、再起動前にアプリケーションがOnlineであったノードでアプリケーションをOnlineにしたい場合は1を指定する。0が指定された場合は、再起動前にアプリケーションがどのノード	任意	0/1	0	0			○				○					
	5-2												○				○					
	5-3			自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no	No			○				○					
	5-4												○				○					
6	6-1		切替え	切替え動作	AutoSwitchOver	クラスタアプリケーションの自動切替えを行う条件を選択 NO: 自動切り替えなし HOSTFAILURE: ノード故障時 RESOURCEFAILURE: リソース故障時 SHUTDOWN: RMS停止時	任意	NO または、 HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の3つの組み合わせ	NO	NO		HOSTFAILURE, RESOURCEFAILURE, SHUTDOWN の全てを設定することを推奨しています。	○				○					
	6-2												○				○					
	6-3												○				○					
	6-4												○				○					
	6-5												○				○					
7	7-1		組込み	組込み動作	StandbyTransitions	クラスタアプリケーションを自動でStandbyにする条件を選択 NO: 自動でStandbyにしない CLEARFAULTREQUEST: 故障クリア時 STARTUP: RMS起動時 SWITCHREQUEST: アプリケーション切り替え時	任意	NO または、 CLEARFAULTREQUEST, STARTUP, SWITCHREQUEST の3つの組み合わせ	NO	CLEARFAULTREQUEST STARTUP SWITCHREQUEST			○				○					
	7-2												○				○					
	7-3												○				○					
	7-4												○				○					
	7-5												○				○					
8	8-1		故障発生時の動作	リソース非活性に失敗した場合の動作	HaltFlag	yesが指定された場合、二重故障発生時にノードを強制停止することで、クラスタアプリケーションの切り替えを行う。	任意	yes/no	no	no		yesに設定することを推奨しています。 AutoSwitchOver=HOSTFAILUREが設定されていない場合、本機能は無効となります。	○				○					
	8-2												○				○					
	8-3			故障発生ノードの扱い	PersistentFault	クラスタアプリケーションのFault状態をRMS再起動後も維持するか否かを選択	任意	0: 維持しない 1: 維持する	0	1			○				○					
	8-4												○				○					
	8-5			クラスタインタコネクト障害時の動作	ShutdownPriority	アプリケーションの優先度を設定する。この値は、スプリットブレインが発生したときに生存させるノードを決定するために使用される。	任意	NONE または、0～20 (数字が大きいほど優先度は高い)	NONE	0			○				○					
	8-6												○				○					
9	9-1		構成	リソース		クラスタアプリケーションに含まれるリソースのリソース名	任意			Cmdline0 Fysytem0 Gls0 Oracle1		指定リソース名	○				○					
	9-2			パトロール診断	診断の要否	パトロール診断をするか否かを選択	任意	◇要 ◇[不要]	不要	不要			○	なし			○	なし				
	9-3				監視間隔	パトロール診断を実施間隔(分)	任意	1～10080	360				×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 INTERVAL=監視間隔			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-4				診断対象ディスク	診断を行うディスクのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象ディスク			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-5				診断対象ネットワーク	診断を行うネットワークのデバイス名	任意		なし			複数ある場合は、行をコピーする	×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名 TARGET_DISK=診断対象LAN			×	/etc/opt/FJSVcluster/bin/clspconfig -u クラスタアプリケーション名				
	9-6			I/Oフェンシング		I/Oフェンシング機能を使用するか否かを選択	任意	◇要 ◇不要				Oracle VM Server for SPARC環境のゲストドメインでのみ設定する。デフォルト値はシステムの構成に応じて自動的に変わる。	○				○					
10			立上げ	自動起動	AutoStartUp	クラスタ起動時にクラスタアプリケーションを起動するか否かを選択	任意	Yes/No	no			以下の項目は、運用形態に「Scalable」を選択した場合のみ設定する。	○				○					
11	11-1		制御対象	スケーラブル運用するクラスタアプリケーション	userApplication	スケーラブル運用したいクラスタアプリケーションを選択	任意					※制御対象が複数ある場合は、行をコピーして使用	○				○					
	11-2			起動順番		上記のクラスタアプリケーションの起動順番を設定	任意	1～(スケーラブル運用するクラスタアプリケーションの個数)	1			他のuserApplicationと同じ起動順番を設定することも可能。	○				○					

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ
機能名	GDSシステムディスクミラー

操作概要		
	GUI設定	UFSブート環境の場合：Web Based Admin ViewからGDSのGUIを起動して設定する。 ZFSブート環境の場合：GUIでの設定は未サポート
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
			大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG(キー名)	GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG(キー名)		
1	1-1		ノード1の設定	クラス名		ノード1のルートクラスのクラス名	必須			Rootclass1		3ノード以上の場合は、「ノード1の設定」の項目をコピーしてパラメタ値を入力してください。	○	コマンドでの設定方法は、以下のドキュメントを参照。 「PRIMECLUSTER Global Disk Services説明書」 ＞「第7章コマンドによるシステムディスクミラーリングの設定と解除」			○	sdxinfo -c <クラス名>				
	1-2			I/O応答時間保証	I/O応答時間保証	ノード1のルートクラスのI/O応答時間保証を有効にする場合はon、無効にする場合はoff	任意	on/off	off			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]] または sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=off			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	1-3				I/O応答時間	I/O 応答時間保証が有効な場合に、I/Oが応答するまでの時間（秒）	任意	6以上、100以下	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	1-4				システムパニックモード	I/O 応答時間保証が有効な場合に、以下の異常発生時にシステムをパニックさせる場合はon、パニックさせない場合はoff － ボリュームを構成するすべてのスライスでI/Oエラーが発生した場合 － クラスが閉塞した場合	任意	on/off	on			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	1-5				ハングアップ監視間隔（SDX_HCHK_INTERVAL）	GDS のデーモンおよびドライバのハングアップ監視の監視間隔（秒）。	任意	12以上、2592000以下、かつ、SDX_HCHK_CRITERIONより大きい	46			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 ハングアップ判断時間の2倍の値を設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
	1-6				ハングアップ判断時間（SDX_HCHK_CRITERION）	GDS のデーモンおよびドライバの監視を始めてからハングアップしていると判断するまでの時間（秒）。	任意	1以上、3600以下、かつ、SDX_HCHK_INTERVALより小さい	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 I/O応答時間と同じ値を設定してください。クラスによってI/O応答時間の設定が異なる場合、システム内で最小のI/O応答時間と同じ値に設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
	1-7			グループ名		グループ名	必須			rootGroup		ミラー元となるシステムディスクが複数存在する場合は、ミラー元ディスクごとにグループの作成を行います。 「グループ名」の項目をコピーしてパラメタ値を入力してください。	○	コマンドでの設定方法は、以下のドキュメントを参照。 「PRIMECLUSTER Global Disk Services説明書」 ＞「第7章コマンドによるシステムディスクミラーリングの設定と解除」			○	sdxinfo -c <クラス名>				
	1-8				マウントポイント	マウントポイント	必須			/, /swap, /usr, /opt		ZFSブート環境の場合は、プール単位での管理となるため、設定はなし。	○	同上			×	なし	/etc/vfstab			
	1-9				物理ディスク名	ミラー元ディスクの物理ディスク名	必須			c0t6000B5D0006A0000006A1296022200000d0			○	同上			○	sdxinfo -c <クラス名>				
	1-10				ミラーディスク名	ミラー先ディスクの物理ディスク名	必須			c0t6000B5D0006A0000006A1296022300000d0		ミラー元ディスク以上のサイズの物理ディスクを追加してください。	○	同上			○	同上				
	1-11				スペアディスク名	スペアディスクの物理ディスク名	任意			–		スペアディスクの容量が、ミラーグループ内のボリュームをコピーするのに不十分な場合、スペアディスクは自動接続されません。クラス内で容量が最大のディスクをスペアディスクとして定義することを推奨します。	○	同上			○	同上				
	1-12				高速等価性回復機構	高速等価性回復機構を使用する場合はon、しない場合はoff。	任意	on/off	on	on			○	sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a jrm=[on|off]			○	同上				
2	2-1		ノード2の設定	クラス名		ノード2のルートクラスのクラス名	必須			Rootclass2			○	コマンドでの設定方法は、以下のドキュメントを参照。 「PRIMECLUSTER Global Disk Services説明書」 ＞「第7章コマンドによるシステムディスクミラーリングの設定と解除」			○	同上				
	2-2			I/O応答時間保証	I/O応答時間保証	ノード1のルートクラスのI/O応答時間保証を有効にする場合はon、無効にする場合はoff	任意	on/off	off			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]] または sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=off			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	2-3				I/O応答時間	I/O 応答時間保証が有効な場合に、I/Oが応答するまでの時間（秒）	任意	6以上、100以下	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	2-4				システムパニックモード	I/O 応答時間保証が有効な場合に、以下の異常発生時にシステムをパニックさせる場合はon、パニックさせない場合はoff － ボリュームを構成するすべてのスライスでI/Oエラーが発生した場合 － クラスが閉塞した場合	任意	on/off	on			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	2-5				ハングアップ監視間隔（SDX_HCHK_INTERVAL）	GDS のデーモンおよびドライバのハングアップ監視の監視間隔（秒）。	任意	12以上、2592000以下、かつ、SDX_HCHK_CRITERIONより大きい	46			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 ハングアップ判断時間の2倍の値を設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
	2-6				ハングアップ判断時間（SDX_HCHK_CRITERION）	GDS のデーモンおよびドライバの監視を始めてからハングアップしていると判断するまでの時間（秒）。	任意	1以上、3600以下、かつ、SDX_HCHK_INTERVALより小さい	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 I/O応答時間と同じ値を設定してください。クラスによってI/O応答時間の設定が異なる場合、システム内で最小のI/O応答時間と同じ値に設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	2-7			グループ名	グループ名	必須			rootGroup		ミラー元となるシステムディスクが複数存在する場合は、ミラー元ディスクごとにグループの作成を行います。 「グループ名」の項目をコピーしてパラメタ値を入力してください。	○	コマンドでの設定方法は、以下のドキュメントを参照。 「PRIMECLUSTER Global Disk Services説明書」 ＞「第7章コマンドによるシステムディスクミラーリングの設定と解除」			○	sdxinfo -c <クラス名>				
	2-8			マウントポイント	マウントポイント	必須			/, /swap, /usr, /opt		ZFSブート環境の場合は、プール単位での管理となるため、設定はなし。	○	同上			×	なし	/etc/vfstab			
	2-9			物理ディスク名	ミラー元ディスクの物理ディスク名	必須			c0t6000B5D0006A0000006A12960220000d0			○	同上			○	sdxinfo -c <クラス名>				
	2-10			ミラーディスク名	ミラー先ディスクの物理ディスク名	必須			c0t6000B5D0006A0000006A12960230000d0		ミラー元ディスク以上のサイズの物理ディスクを追加してください。	○	同上			○	同上				
	2-11			スペアディスク名	スペアディスクの物理ディスク名	任意			-		スペアディスクの容量が、ミラーグループ内のボリュームをコピーするのに不十分な場合、スペアディスクは自動接続されません。クラス内で容量が最大のディスクをスペアディスクとして定義することを推奨します。	○	同上			○	同上				
	2-12			高速等価性回復機構	高速等価性回復機構を使用する場合はon、しない場合はoff。	任意	on/off	on	on			○	sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名>			○	同上				

GDS：Global Disk Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	GDSローカルクラス

操作概要		
	GUI設定	Web Based Admin ViewからGDSのGUIを起動して設定する。
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1			クラス名			ローカルクラスのクラス名	必須			class02		また、ローカルクラスを複数作成する場合は、本シートをコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
2			ノード名			ノード名	必須			node1			○				○	同上				
3	3-1		I/O応答時間保証	I/O応答時間保証		クラスのI/O応答時間保証を有効にする場合はon、無効にする場合はoff	任意	on/off	off			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]] または sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=off			×	sdxinfo -l -c <クラス名>				
	3-2			I/O応答時間		I/O 応答時間保証が有効な場合に、I/Oが応答するまでの時間(秒)	任意	6以上、100以下	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -l -c <クラス名>				
	3-3			システムパニックモード		I/O 応答時間保証が有効な場合に、以下の異常発生時にシステムをパニックさせる場合はon、パニックさせない場合はoff － ボリュームを構成するすべてのスライスでI/Oエラーが発生した場合 － クラスが閉塞した場合	任意	on/off	on			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -l -c <クラス名>				
	3-4			ハングアップ監視間隔(SDX_HCHK_INTERVAL)		GDS のデーモンおよびドライバのハングアップ監視の監視間隔(秒)。	任意	12以上、2592000以下、かつ、SDX_HCHK_CRITERIONより大きい	46			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 ハングアップ判断時間の2倍の値を設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
	3-5			ハングアップ判断時間(SDX_HCHK_CRITERION)	ハングアップ判断時間(SDX_HCHK_CRITERION)	GDS のデーモンおよびドライバの監視を始めてからハングアップしていると判断するまでの時間 (秒)。	任意	1以上、3600以下、かつ、SDX_HCHK_INTERVALより小さい	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 I/O応答時間と同じ値を設定してください。クラスによってI/O応答時間の設定が異なる場合、システム内で最小のI/O応答時間と同じ値に設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
4	4-1		スペアディスク	SDXディスク名		スペアディスクのSDXディスク名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	4-2			物理ディスク名		スペアディスクの物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	4-3			ホットスペア		ホットスペアの有効・無効。無効の場合、スペアディスクの自動接続が抑止されます。	任意	on/off	on					sdxattr -C -c <クラス名> -a hs=[on|off]			×	同上				
	4-4			ホットスペアモード		スペアディスクの選択方式を指定する。 exbox：筐体外優先方式 bybox：筐体内優先方式	任意	exbox/bybox	exbox					sdxattr -C -c <クラス名> -a hsmode=[exbox|bybox]			×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
5	5-1		シングルディスク1	SDXディスク名		シングルディスクのSDXディスク名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-2			物理ディスク名		シングルディスクの物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	5-3			シングルボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	5-4				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	5-5				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			物理スライス属性についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-6				高速等価性回復機構	高速等価性回復機構を使用する場合はon、しない場合はoff。	任意	on/off	on				○				○	同上				
	5-7				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw：読み書き用モード ro：読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-8				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on：以降の起動がロック(抑止)されています off：以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-9			シングルボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-10				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	5-11				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-12				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-13				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw：読み書き用モード ro：読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-14				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on：以降の起動がロック(抑止)されています off：以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
6	6-1		シングルディスク2	SDXディスク名			任意					シングルディスク3つ以上作成する場合は、「シングルディスク1」の項目をコピーしてパラメタ値を入力してください。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-2			物理ディスク名		シングルディスクの物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	6-3			シングルボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	6-4				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	6-5				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			物理スライス属性についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-6				高速等価性回復機構	高速等価性回復機構を使用する場合はon、しない場合はoff。	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-7				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw：読み書き用モード ro：読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-8				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on：以降の起動がロック(抑止)されています off：以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-9			シングルボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-10				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	6-11				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-12				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-13				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw：読み書き用モード ro：読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-14				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on：以降の起動がロック(抑止)されています off：以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
7	7-1		グループに接続するディスク1	SDXディスク名		グループに接続するディスクのSDXディスク名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	7-2			物理ディスク名		グループに接続するディスクの物理ディスク名	任意						○				○	同上				
8	8-1		グループに接続するディスク2	SDXディスク名		グループに接続するディスクのSDXディスク名	任意					グループに3本以上ディスクを接続する場合は、「グループに接続するディスク1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
	8-2			物理ディスク名		グループに接続するディスクの物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	9-1			グループ名		グループを階層化する場合の下位グループ名	任意						○				×	同上				
	9-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意	コンカチ、ストライプ					○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

9	9-3		下位グループ1	ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	9-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	9-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				×	同上				
10	10-1		下位グループ2	グループ名		グループを階層化する場合の下位グループ名	任意					下位グループを3つ以上作成する場合は、「下位グループ名1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				×	同上				
	10-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意	コンカチ、ストライプ					○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	10-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	10-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	10-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				×	同上				
11	11-1		最上位 グループ1	グループ名		最上位グループの(階層化しない場合も含む)グループ名	任意						○				○	同上				
	11-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意						○				○	同上				
	11-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-6			ボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-7				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	11-8				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-9				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-10				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-11				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-12			ボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-13				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	11-14				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-15				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-16				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-17				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
12	12-1		最上位 グループ2	グループ名		最上位グループの(階層化しない場合も含む)グループ名	任意					最上位グループを3つ以上作成する場合は、「最上位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				×	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-6			ボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-7				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	12-8				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-9				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	12-10				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-11				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-12			ボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-13				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	12-14				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-15				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-16				アクセスモード	ボリュームのアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-17				起動ロックモード	ボリュームの起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				

GDS:Global Disk Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ
機能名	GDS共用クラス

操作概要		
	GUI設定	Web Based Admin ViewからGDSのGUIを起動して設定する。
	CFMG設定	（省略）

No.		エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備　考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄
1	1-1		クラス名			共用クラスのクラス名	必須			class01		共用クラスを複数作成する場合は、本シートをコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
2	2-1		クラススコープ	ノード1		クラススコープのノード名	必須			node1			○				○	同上				
	2-2			ノード2		クラススコープのノード名	必須			node2		3ノード以上の場合は、項目を追加してパラメタを入力してください。	○				○	同上				
3	3-1		I/O応答時間保証	I/O応答時間保証		クラスのI/O応答時間保証を有効にする場合はon、無効にする場合はoff	任意	on/off	off			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]] または sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=off			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	3-2			I/O応答時間		I/O 応答時間保証が有効な場合に、I/Oが応答するまでの時間(秒)	任意	6以上、100以下	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	3-3			システムパニックモード		I/O 応答時間保証が有効な場合に、以下の異常発生時にシステムをパニックさせる場合はon、パニックさせない場合はoff ― ボリュームを構成するすべてのスライスでI/Oエラーが発生した場合 ― クラスが閉塞した場合	任意	on/off	on			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。	×	sdxattr -C -c <クラス名> -a iotimeout=on[:<I/O応答時間>[:<システムパニックモード>]]			×	sdxinfo -I -c <クラス名>				
	3-4			ハングアップ監視間隔(SDX_HCHK_INTERVAL)		GDS のデーモンおよびドライバのハングアップ監視の監視間隔(秒)。	任意	12以上、2592000以下、かつ、SDX_HCHK_CRITERIONより大きい	46			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 ハングアップ判断時間の2倍の値を設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
	3-5			ハングアップ判断時間(SDX_HCHK_CRITERION)		GDS のデーモンおよびドライバの監視を始めてからハングアップしていると判断するまでの時間 (秒)。	任意	1以上、3600以下、かつ、SDX_HCHK_INTERVALより小さい	23			PRIMECLUSTER GD I/O Monitor Option使用時のみ設定可能。 I/O応答時間と同じ値を設定してください。クラスによってI/O応答時間の設定が異なる場合、システム内で最小のI/O応答時間と同じ値に設定してください。	×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf		×		/etc/opt/FJSVsdx/sdx.cf			
4	4-1		スペアディスク	SDXディスク名		スペアディスクのSDXディスク名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	4-2			ノード1における物理ディスク名		スペアディスクのノード1における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	4-3			ノード2における物理ディスク名		スペアディスクのノード2における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	4-4			ホットスペア		ホットスペアの有効・無効。無効の場合、スペアディスクの自動接続が抑止されます。	任意	on/off	on					sdxattr -C -c <クラス名> -a hs=[on|off]			×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	4-5			ホットスペアモード		スペアディスクの選択方式を指定する。 exbox:筐体外優先方式 bybox:筐体内優先方式	任意	exbox/bybox	exbox					sdxattr -C -c <クラス名> -a hsmode=[exbox|bybox]			×	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
5	5-1		シングルディスク1	SDXディスク名		シングルディスクのSDXディスク名	任意			disk020001			○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-2			ノード1における物理ディスク名		シングルディスクのノード1における物理ディスク名	任意			c2d2			○				○	同上				
	5-3			ノード2における物理ディスク名		シングルディスクのノード2における物理ディスク名	任意			c2d2			○				○	同上				
	5-4			シングルボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意			volume0001			○				○	同上				
	5-5				サイズ	ボリュームサイズ	任意			10GB			○				○	同上				
	5-6				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			物理スライス属性についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-7				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			高速等価性回復機構についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-8				ノード1におけるアクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-9				ノード2におけるアクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	同上				
	5-10				ノード1における起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	5-11				ノード2における起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	5-12			シングルボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-13				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	5-14				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-15				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	5-16				ノード1におけるアクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	5-17				ノード2におけるアクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	同上				
	5-18				ノード1における起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	5-19				ノード2における起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
6	6-1		シングルディスク2	SDXディスク名		シングルディスクのSDXディスク名	任意			disk020002		シングルディスク1」の項目をコピーしてパラメタ値を入力してください。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-2			ノード1における物理ディスク名		シングルディスクのノード1における物理ディスク名	任意			c2d3			○				○	同上				
	6-3			ノード2における物理ディスク名		シングルディスクのノード2における物理ディスク名	任意			c2d3			○				○	同上				
	6-4			シングルボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意			volume0002			○				○	同上				
	6-5				サイズ	ボリュームサイズ	任意			10GB			○				○	同上				
	6-6				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			物理スライス属性についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-7				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			高速等価性回復機構についてはマニュアル参照	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-8				ノード1におけるアクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-9				ノード2におけるアクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	同上				
	6-10				ノード1における起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	6-11				ノード2における起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	6-12				ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-13				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	6-14			シングル ボリューム2	物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-15				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on				○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	6-16				ノード1における アクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	6-17				ノード2における アクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]			○	同上				
	6-18				ノード1における 起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
	6-19				ノード2における 起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]			○	同上				
7	7-1		グループに接続 するディスク1	SDXディスク名		グループに接続するディスクのSDXディスク名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	7-2			ノード1における物理ディスク名		グループに接続するディスクのノード1における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	7-3			ノード2における物理ディスク名		グループに接続するディスクのノード2における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
8	8-1		グループに接続 するディスク2	SDXディスク名		グループに接続するディスクのSDXディスク名	任意						○				○	同上				
	8-2			ノード1における物理ディスク名		グループに接続するディスクのノード1における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
	8-3			ノード2における物理ディスク名		グループに接続するディスクのノード2における物理ディスク名	任意						○				○	同上				
9	9-1		下位グループ1	グループ名		グループを階層化する場合の下位グループ名	任意						○				○	同上				
	9-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意	コンカチ、ストライプ					○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	9-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				×	同上				
	9-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	9-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
10	10-1		下位グループ2	グループ名		グループを階層化する場合の下位グループ名	任意					下位グループを3つ以上作成する場合は、「下位グループ名1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
	10-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意	コンカチ、ストライプ					○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	10-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				○	同上				
	10-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	10-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
11	11-1		最上位 グループ1	グループ名		最上位グループの(階層化しない場合も含む)グループ名	任意						○				○	同上				
	11-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				○	同上				
	11-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
	11-6			ボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	11-7				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	11-8				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-9				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	11-10				ノード1における アクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]				sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-11				ノード2における アクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]				同上				
	11-12				ノード1における 起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]				同上				
	11-13				ノード2における 起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off					sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]				同上				
	11-14				ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	11-15				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	11-16				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	11-17				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

	11-18			ボリューム2	ノード1における アクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]						
	11-19				ノード2における アクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]	同上				
	11-20				ノード1における 起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				
	11-21				ノード2における 起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				
12	12-1		最上位 グループ2	グループ名		最上位グループの(階層化しない場合も含む)グループ名	任意					最上位グループを3つ以上作成する場合は、「最上位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
	12-2			グループタイプ		グループの種別を表す属性	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-3			ストライプ幅		ストライピングのデータ分割サイズを表す属性	任意	(2 のべき乗)×512 バイトで、以下の条件を満たす。 － 最小値: 512 バイト － 最大値: 以下の中で一番小さい値 －(2 の 30乗)×512 バイト(=512GB) － グループ内で最小のディスクの有効サイズ － グループ内で最小の下位グループの有効サイズ				グループタイプがストライプの場合にのみ設定。	○				○	同上				
	12-4			ディスク /下位グループ	ディスク /下位グループ1	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意						○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-5				ディスク /下位グループ2	本グループに接続されるディスク名、または、下位グループ名	任意					本グループに3つ以上ディスクまたは下位グループを接続する場合は、「ディスク/下位グループ1」の項目をコピーしてパラメタを入力してください。	○				○	同上				
	12-6			ボリューム1	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	12-7				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	12-8				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-9				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-10				ノード1における アクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]					sdxinfo -c <クラス名> -e long	
	12-11				ノード2における アクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]	同上				
	12-12				ノード1における 起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				
	12-13				ノード2における 起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				
	12-14			ボリューム2	ボリューム名	ボリューム名	任意						○				○	同上				
	12-15				サイズ	ボリュームサイズ	任意						○				○	同上				
	12-16				物理スライス属性	物理スライス属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名> -e long				
	12-17				高速等価性回復機構	高速等価性回復モードを表す属性	任意	on/off	on			コンカチ、ストライプボリュームの場合はoffとなります。	○				○	sdxinfo -c <クラス名>				
	12-18				ノード1における アクセスモード	ボリュームのノード1におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]					sdxinfo -c <クラス名> -e long	
	12-19				ノード2における アクセスモード	ボリュームのノード2におけるアクセスモード rw:読み書き用モード ro:読み取り専用モード	任意	rw/ro	rw							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a mode=[rw|ro]	同上				
	12-20				ノード1における 起動ロックモード	ボリュームのノード1における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				
	12-21				ノード2における 起動ロックモード	ボリュームのノード2における起動ロックモード on:以降の起動がロック(抑止)されています off:以降の起動がロック(抑止)されていません	任意	on/off	off							sdxattr -V -c <クラス名> -v <ボリューム名> -a lock=[on|off]	同上				

GDS:Global Disk Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	監視パラメーター （仮想インタフェース共通）

操作概要	GUI設定	GUIなし
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値複数	自由入力欄	二重化方式 NIC切替方式	二重化方式 仮想NIC方式	二重化方式 高速切替方式	二重化方式 GS連携方式
1		監視パラメータ	高速切替方式	伝送路を監視する間隔	伝送路を監視する間隔(value)を秒単位で指定します。	任意	0～300	5					hanetparam -w				hanetparam print							○	
2				伝送路異常検出時のメッセージ出力	伝送路異常検出時にメッセージ出力(メッセージ番号:800,801)する場合、メッセージ出力までの連続監視回数(value)を指定します。0を指定した場合はメッセージ出力を行いません。	任意	0～100	0					hanetparam -m				hanetparam print							○	
3				伝送路異常時にクラスタ切替え	仮想インタフェースが使用している伝送路がすべて異常となった場合、クラスタ切替えを行うか否かを指定します。0を指定した場合は、クラスタ切替えを行いません。クラスタ切替えを行う場合は、クラスタ切替えを行うまでの連続監視回数を指定します。	任意	0～100	5					hanetparam -l				hanetparam print							○	
4				userApplication起動直後のクラスタ切替え	システム起動前に、既に仮想インタフェースが使用するすべての伝送路で異常が発生していた場合、userApplication起動後直ちにクラスタ切替えを行うか否かを指定します。"on"を指定した場合、userApplication起動後直ちにクラスタ切替えを行います。"off"を指定した場合は、userApplication起動直後はクラスタ切替えを行いません。	任意	on/off	off					hanetparam -c				hanetparam print							○	
5				物理インタフェースの状態変化時のメッセージ出力有無	仮想インタフェースが使用している物理インタフェースの状態が変化(伝送路異常検出、または復旧)した場合に、メッセージ出力を行うか否かを指定します。 "on"を指定した場合、メッセージを出力(メッセージ番号:990,991,992)します。"off"を指定した場合にはメッセージを出力しません。	任意	on/off	off					hanetparam -s				hanetparam print							○	
6			NIC切替方式	待機パトロール監視間隔	待機パトロール機能による運用NICと待機NIC間の経路に対して、監視間隔(value)を秒単位で指定します。0を指定した場合は監視を行いません。	任意	0～100	15			ユーザコマンド実行機能(待機パトロール異常、復旧検出時のユーザコマンド実行)を設定している場合は、本パラメタに0を指定しないでください。0を指定した場合、ユーザコマンド実行が機能しません。		hanetparam -p				hanetparam print					○			
7				待機パトロール監視回数	待機パトロール機能による伝送路異常検出時、メッセージ出力(メッセージ番号:875)までの連続監視回数(value)を指定します。0を指定した場合はメッセージ出力を停止し、待機パトロール機能による監視を無効化します。	任意	0～100	3			ユーザコマンド実行機能(待機パトロール異常、復旧検出時のユーザコマンド実行)を設定している場合は、本パラメタに0を指定しないでください。0を指定した場合、ユーザコマンド実行が機能しません。		hanetparam -o				hanetparam print					○			
8				待機インタフェースの非活性方法	待機インタフェースの非活性方法(value)を指定します。指定可能な値は、"plumb"または"unplumb"です。"plumb"を指定した場合、待機インタフェースを非活性状態にし、IP アドレスに"0.0.0.0"を設定します。また、"unplumb"を指定した場合は、待機インタフェースを非活性後、未使用状態にします。	任意	plumb/unplumb	plumb			"INTERSTAGE Traffic Director"を使用する場合は、plumbを設定してください。		hanetparam -d				hanetparam print					○			
9		監視パラメータ	NIC切替方式、GS/SURE連携方式共通	監視間隔	監視間隔を秒で指定します。	任意	1～300	5			監視間隔と監視回数の積が300以内であること		hanetpoll on -s				hanetpoll print					○			○
10				監視回数	監視回数を指定します。	任意	1～300	5			監視間隔と監視回数の積が300以内であること		hanetpoll on -c				hanetpoll print					○			○
11				GS/SURE連携方式の復旧監視間隔	GS/SURE連携方式の通信相手ホスト監視で、異常を検出した場合の復旧監視間隔を指定します。	任意	0～300	5					hanetpoll on -b				hanetpoll print								○
12				全伝送路異常を契機としたクラスタ切替	全伝送路異常によりノード間切替えが発生する場合の動作について設定します。 yes:伝送路監視異常発生時にノード間切替を行います。 no :伝送路監視異常発生時にノード間切替を行いません。	任意	yes/no	yes					hanetpoll on -f				hanetpoll print					○			○
13				リンクアップ待ち時間	監視開始後にHUBがリンクアップするまでの待ち時間を秒単位で指定します。	任意	1～300	60			監視間隔×監視回数よりも値が小さい場合には本設定は無視され、監視間隔×監視回数で設定されている時間を採用します。		hanetpoll on -p				hanetpoll print					○			○
14				リンクダウン監視	NIC切替方式で運用NICがリンクダウンした際の動作について設定します。 yes:運用NICがリンクダウンした状態でHUB監視に1回でも失敗した際に即時にNICを切替えます。 no :運用NICがリンクダウンした際にHUB監視に失敗するまでNICを切替えません。	任意	yes/no	yes					hanetpoll on -l				hanetpoll print					○			○
15		監視パラメータ	仮想NIC方式	監視間隔	監視間隔を秒で指定します。	任意	1～100	3			監視間隔と監視回数の積が100以内であること		rvnetadm set-param -i				rvnetadm show-param						○		
16				監視回数	監視回数を指定します。	任意	1～100	3			監視間隔と監視回数の積が100以内であること		rvnetadm set-param -c				rvnetadm show-param						○		
17				復旧監視回数	復旧監視回数を指定します。	任意	1～100	1					rvnetadm set-param -r				rvnetadm show-param						○		
18				エラー検出遅延時間	エラー検出遅延時間を指定します。	任意	1～100	45			監視間隔と監視回数の積よりも小さい場合は、本設定は無視されます。		rvnetadm set-param -d				rvnetadm show-param						○		

GLS:Global Link Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ値	セットアップ

機能名	仮想インタフェース設定 （仮想インタフェース側）

仮想インタフェースを複数作成する場合には本シートをコピーして設計してください。仮想インタフェースは最大64個です。

操作概要	GUI設定	GUIなし
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄	二重化方式 NIC切替方式	二重化方式 高速切替方式	二重化方式 GS連携方式
1		仮想インタフェース名			新規に作成する構成情報の仮想インタフェース名、または論理仮想インタフェース名を指定します。	必須	shaX（Xは数字）		sha0				hanetconfig create -n				hanetconfig print					○	○	○
2		運用モード			運用モード(伝送路二重化方式の種別)を指定します。 t：高速切替方式 d：NIC切替方式（論理IPアドレス引継ぎ機能） e：NIC切替方式（物理IPアドレス引継ぎ機能） c：GS連携方式	任意	t,d,e,c		d				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○	○	○
3		仮想インタフェースのIPアドレス(IPv4)			仮想インタフェースまたは論理仮想インタフェース(-nオプションで指定されたdevicename)に割り当てるIPアドレスまたはホスト名を指定します。	任意			172.16.0.53				hanetconfig create -i				hanetconfig print					○	○	○
4		仮想インタフェースのIPアドレス(IPv6)			NIC切替方式の場合は、IPv6アドレスまたはホスト名を指定します。高速切替方式の場合にはアドレス自動構成となるため、IPアドレスの代わりに"inet6"を指定します。	任意					IPv6アドレスの後に、"/"(スラッシュ)に続けてprefix長を指定します。		hanetconfig create -i				hanetconfig print					○	○	
5		物理インタフェースのIPアドレス			物理インタフェースに割り当てるIPアドレスまたはホスト名を指定します。	任意			172.16.0.21				hanetconfig create -e				hanetconfig print					○		
6		プライマリインタフェース名			NIC切替方式の仮想インタフェースが束ねるプライマリインタフェース名	任意			net2				hanetconfig create -t				hanetconfig print					○		
7		セカンダリインタフェース名			NIC切替方式の仮想インタフェースが束ねるセカンダリインタフェース名	任意			net6				hanetconfig create -t				hanetconfig print					○		
8		物理インタフェース情報			高速切替方式、GS連携方式の物理インタフェースの情報 例： net1,192.168.10.1,255.255.255.0 net2,192.168.20.1,255.255.255.0	任意					最大8物理インタフェース		hanetconfig create -t				hanetconfig print						○	○
9		仮想インタフェースのIPアドレスに対するサブネットマスク			仮想IPアドレスを活性化する際に指定するサブネットマスク値を指定します。	任意			255.255.255.0					/etc/inet/netmasks				/etc/inet/netmasks				○	○	○
10		待機パトロール機能が使用する仮想インタフェース名			NIC切替方式で待機パトロール機能を使用する場合に、待機パトロール起動で使用する仮想インタフェース名を指定します。	任意	shaY（Yは数字）		sha1				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○		
11		待機パトロール機能の運用モード			待機パトロール機能の運用モードを指定します。 p：待機パトロール機能（異常発生時自動切戻し） q：待機パトロール機能（即時自動切戻し）	任意	p, q		p				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○		
12		待機パトロール機能のMACアドレス			待機パトロール機能が待機NICに割り当てるMACアドレスを指定します。	任意	XX:XX:XX:XX:XX:XX(Xは0～Fの16進数)	自動設定			運用NICと待機NICのMACアドレスが同一の環境ではローカルMACアドレス(02:XX:XX:XX:XX:XX：先頭の02はローカルMACアドレスであることを表します)を指定してください。運用NICと待機NICのMACアドレスが異なる環境ではNICに設定されているグローバルアドレスがそのまま使用されるよう0:0:0:0:0:0 を指定してください。		hanetconfig create -a				hanetconfig print					○		
13		論理仮想インタフェース情報			高速切替方式で、論理仮想インタフェースを作成する場合に、論理仮想インタフェース名、IPアドレスの情報を指定します。 例： sha0:10.192.168.0.10 sha0:20.192.168.0.20	任意					複数の論理仮想インタフェースを作成する場合には、カンマで区切って指定します。		hanetconfig create -n -i				hanetconfig print						○	
14		HUB監視機能のプライマリ監視先IPアドレス			HUB監視機能のプライマリ監視先IPアドレスを指定します。	任意			172.16.0.100				hanetpoll create -p				hanetpoll print					○		
15		HUB監視機能のセカンダリ監視先IPアドレス			HUB監視機能のセカンダリ監視先IPアドレスを指定します。	任意			172.16.0.101				hanetpoll create -p				hanetpoll print					○		
16		HUB-HUB間監視機能			HUB-HUB間監視機能を使用するかどうかを設定します。	任意	on/off	off	off				hanetpoll create -b				hanetpoll print					○		
17		クラスタ引継ぎ			NIC切替方式、GS連携方式で、仮想IPアドレスをクラスタで引継ぐかどうかを指定します。 0：クラスタリソースへ登録しない 1：クラスタリソースへ登録する	任意	0,1	0	1				hanethvrsc create				hanethvrsc print					○		○
18		クラスタ引継ぎIPアドレス			高速切替方式で、クラスタで使用する引継ぎ仮想IPアドレスを指定します。	任意					複数の引継ぎ仮想IPアドレスを使用する場合には、カンマで区切って指定します。 例：192.168.80.10,192.168.80.20		hanethvrsc create -i				hanethvrsc print						○	
19		仮想ゲートウェイアドレス			GS連携方式の仮想ゲートウェイのIPアドレスを設定します。	任意							hanetgw create				hanetgw print							○

GLS：Global Link Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	仮想インタフェース設定 （仮想インタフェース側）

仮想インタフェースを複数作成する場合には本シートをコピーして設計してください。仮想インタフェースは最大64個です。

操作概要	GUI設定	GUIなし
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名 大分類	パラメータ名 中分類	パラメータ名 小分類	パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備考	設定方法 GUI	設定方法 コマンド名	設定方法 ファイル名	設定方法 CFMG(キー名)	収集方法 GUI	収集方法 コマンド名	収集方法 ファイル名	収集方法 CFMG(キー名)	設定値確認	自由入力欄	二重化方式 NIC切替方式	二重化方式 高速切替方式	二重化方式 GS連携方式
1		仮想インタフェース名			新規に作成する構成情報の仮想インタフェース名、または論理仮想インタフェース名を指定します。	必須	shaX（Xは数字）		sha0				hanetconfig create -n				hanetconfig print					○	○	○
2		運用モード			運用モード(伝送路二重化方式の種別)を指定します。 t：高速切替方式 d：NIC切替方式（論理IPアドレス引継ぎ機能） e：NIC切替方式（物理IPアドレス引継ぎ機能） c：GS連携方式	任意	t,d,e,c		d				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○	○	○
3		仮想インタフェースのIPアドレス(IPv4)			仮想インタフェースまたは論理仮想インタフェース(-nオプションで指定されたdevicename)に割り当てるIPアドレスまたはホスト名を指定します。	任意			172.16.0.53				hanetconfig create -i				hanetconfig print					○	○	○
4		仮想インタフェースのIPアドレス(IPv6)			NIC切替方式の場合は、IPv6アドレスまたはホスト名を指定します。高速切替方式の場合にはアドレス自動構成となるため、IPアドレスの代わりに"inet6"を指定します。	任意					IPv6アドレスの後に、"/"(スラッシュ)に続けてprefix長を指定します。		hanetconfig create -i				hanetconfig print					○	○	
5		物理インタフェースのIPアドレス			物理インタフェースに割り当てるIPアドレスまたはホスト名を指定します。	任意			172.16.0.22				hanetconfig create -e				hanetconfig print					○		
6		プライマリインタフェース名			NIC切替方式の仮想インタフェースが束ねるプライマリインタフェース名	任意			net2				hanetconfig create -t				hanetconfig print					○		
7		セカンダリインタフェース名			NIC切替方式の仮想インタフェースが束ねるセカンダリインタフェース名	任意			net6				hanetconfig create -t				hanetconfig print					○		
8		物理インタフェース情報			高速切替方式、GS連携方式の物理インタフェースの情報 例： net1,192.168.10.1,255.255.255.0 net2,192.168.20.1,255.255.255.0	任意					最大8物理インタフェース		hanetconfig create -t				hanetconfig print						○	○
9		仮想インタフェースのIPアドレスに対するサブネットマスク			仮想IPアドレスを活性化する際に指定するサブネットマスク値を指定します。	任意			255.255.255.0					/etc/inet/netmasks				/etc/inet/netmasks				○	○	○
10		待機パトロール機能が使用する仮想インタフェース名			NIC切替方式で待機パトロール機能を使用する場合に、待機パトロール起動で使用する仮想インタフェース名を指定します。	任意	shaY（Yは数字）		sha1				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○		
11		待機パトロール機能の運用モード			待機パトロール機能の運用モードを指定します。 p：待機パトロール機能（異常発生時自動切戻し） q：待機パトロール機能（即時自動切戻し）	任意	p, q		p				hanetconfig create -m				hanetconfig print					○		
12		待機パトロール機能のMACアドレス			待機パトロール機能が待機NICに割り当てるMACアドレスを指定します。	任意	XX:XX:XX:XX:XX:XX(Xは0～Fの16進数)	自動設定			運用NICと待機NICのMACアドレスが同一の環境ではローカルMACアドレス(02:XX:XX:XX:XX:XX：先頭の02はローカルMACアドレスであることを表します)を指定してください。運用NICと待機NICのMACアドレスが異なる環境ではNICに設定されているグローバルアドレスがそのまま使用されるよう0:0:0:0:0:0 を指定してください。		hanetconfig create -a				hanetconfig print					○		
13		論理仮想インタフェース情報			高速切替方式で、論理仮想インタフェースを作成する場合に、論理仮想インタフェース名、IPアドレスの情報を指定します。 例： sha0:10.192.168.0.10 sha0:20.192.168.0.20	任意					複数の論理仮想インタフェースを作成する場合には、カンマで区切って指定します。		hanetconfig create -n -i				hanetconfig print						○	
14		HUB監視機能のプライマリ監視先IPアドレス			HUB監視機能のプライマリ監視先IPアドレスを指定します。	任意			172.16.0.100				hanetpoll create -p				hanetpoll print					○		
15		HUB監視機能のセカンダリ監視先IPアドレス			HUB監視機能のセカンダリ監視先IPアドレスを指定します。	任意			172.16.0.101				hanetpoll create -p				hanetpoll print					○		
16		HUB-HUB間監視機能			HUB-HUB間監視機能を使用するかどうかを設定します。	任意	on/off	off	off				hanetpoll create -b				hanetpoll print					○		
17		クラスタ引継ぎ			NIC切替方式、GS連携方式で、仮想IPアドレスをクラスタで引継ぐかどうかを指定します。 0：クラスタリソースへ登録しない 1：クラスタリソースへ登録する	任意	0,1	0	1				hanethvrsc create				hanethvrsc print					○		○
18		クラスタ引継ぎIPアドレス			高速切替方式で、クラスタで使用する引継ぎ仮想IPアドレスを指定します。	任意					複数の引継ぎ仮想IPアドレスを使用する場合には、カンマで区切って指定します。 例：192.168.80.10,192.168.80.20		hanethvrsc create -i				hanethvrsc print						○	
19		仮想ゲートウェイアドレス			GS連携方式の仮想ゲートウェイのIPアドレスを設定します。	任意							hanetgw create				hanetgw print							○

GLS：Global Link Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021

パラメタ種	セットアップ

機能名	仮想NIC設定 （仮想NIC毎）

仮想NICを複数作成する場合には本シートをコピーして設計してください。仮想NICは最大256個です。

操作概要		
	GUI設定	GUIなし
	CFMG設定	（省略）

No.	エディション情報	パラメータ名			パラメータ説明	必須/任意	設定値の範囲	デフォルト値	設定値	デフォルト値変更	備 考	設定方法				収集方法				設定値確認	自由入力欄
		大分類	中分類	小分類								GUI	コマンド名		CFMG（キー名）	GUI	コマンド名	ファイル名	CFMG（キー名）		
1		仮想NIC名			新規に作成する構成情報の仮想NIC名を指定します。	必須	任意の文字列＋数字				shaX(Xは数字)は使用しないでください。		rvnetadm create -n				rvnetadm print				
2		物理インタフェース名１			仮想NICが束ねるインタフェース名	任意							rvnetadm create -i				rvnetadm print				
3		物理インタフェース名２			仮想NICが束ねるインタフェース名	任意							rvnetadm create -i				rvnetadm print				
4		仮想NICのMACアドレス			仮想NICに割り当てるMACアドレスを指定します。	任意	XX:XX:XX:XX:XX:XX(Xは0～F の16進数)	自動設定			通常、仮想NICのMACアドレスは、インターフェースのMACアドレスをもとに自動生成するため、MAC-addressの指定は不要です。ただし、指定が必要な場合は、以下に割り当てられているMACアドレスと重複しないアドレスを設定してください。 － 他の仮想NIC － 物理NIC － 同一セグメントの他のノード		rvnetadm create -a				rvnetadm print				
5		仮想NICのIPアドレス			仮想NICに割り当てるIPアドレスを指定します。	任意					アドレスの後に、“/”(スラッシュ)に続けてprefix長を指定します（例：192.168.100.1/24）。		ipadm -a				ipadm				
6		MAC追従モード			“MAC追従”の動作設定をします。 on：“MAC追従”有効 通常は、“運用-待機”で通信を行い、ネットワーク監視が異常を検出した場合は、“MAC追従”で通信を行います。 off：“MAC追従” 無効 常時、“運用-待機”で通信を行います。	任意	on/off	on					rvnetadm set-prop -m				rvnetadm show-prop				
7		仮想NICのリンク状態伝搬			仮想NICのリンク状態伝搬の有効・無効を設定します。 yes：リンク状態伝搬が有効 仮想NICによって束ねられるインターフェースのリンク状態変更を、仮想NICのリンク状態に伝搬します。 no：リンク状態伝搬が無効 仮想NICによって束ねられるインターフェースのリンク状態変更を、仮想NICのリンク状態に伝搬しません。	任意	yes/no	no			物理NICのリンクダウンによって、Solarisゾーン間の通信が途絶えないようにする場合は、noに設定してください。		rvnetadm set-prop -l				rvnetadm show-prop				
8		ネットワーク分断時のパケット送信方式			“MAC追従”で通信を行う際、宛先MACアドレスと一致するMACアドレスが未学習の場合、または宛先MACアドレスがブロードキャストかマルチキャストの場合のパケット送信方式を設定します。 b：ブロードキャスト方式 パケットを複製してすべてのNICから同時に送信します。 r：ラウンドロビン方式 NICを均等に分散してパケットを送信します。	任意	b/r	r			b：ブロードキャスト方式 複数のNICから同じパケットを送信するため、パケットを重複受信することが為ります(注)。パケットを送信するまでの時間は、ラウンドロビン方式に比べて短くなります。アプリケーションが重複受信を許容できる場合に、この方式を選択してください。 r：ラウンドロビン方式 パケットを送信するまでに時間がかかるデメリットがありますが、アプリケーションが重複受信を許容できない場合は、この方式を選択してください。		rvnetadm set-prop -p				rvnetadm show-prop				
9		仮想NICのMTU値			仮想NICのMTU値を変更します。	任意		1500			仮想インターフェースのMTU値は、仮想インターフェースが束ねているインターフェースのMTU値を超えないように指定してください。		rvnetadm set-prop -u				rvnetadm show-prop				

GLS：Global Link Services

All Rights Reserved, Copyright(c) FUJITSU LIMITED 2021